

平成元年度

米沢市立上杉博物館年報

Vol. 2

目 次

○刊行にあたって	1
○館の概要	2
・目的と沿革	
・施設	
・博物館日誌	
○平成元年度事業	4
・展示 (1) 米沢の県・市指定文化財展	4
(2) 市制100年の歩み写真展	7
(3) 第19回日本刀展 —新々刀から現代刀まで—	8
(4) 関野準一郎奥の細道版画と 芭蕉関係資料展	12
(5) 上杉鷹山公とその時代	15
(6) 古陶磁展	19
(7) 館蔵品展	21
・収集 元年度受入資料	22
収蔵資料件数	26
・調査報告 成島八幡神社「棟札」等について	27
○組織・名簿	59
・市立上杉博物館協議会委員	59
・社団法人上杉博物館協会	59
・財団法人米沢上杉文化振興財団	60
・米沢市立上杉博物館	61

刊行にあたって

平成元年は、市制施行100周年の節目の年にあたり、当館においても数々の記念事業を実施しました。

「市制100年の歩み写真展」や、中興の名君といわれた九代米沢藩主上杉鷹山公の生涯と業績を再認識しようと企画された「上杉鷹山とその時代」特別展など、100周年記念事業の一環として、市民の方々の企画参加を得ながら盛大に開催されました。

また、この年は、文化財の分野においても記念すべき年となりました。

重要文化財である「紙本金地著色洛中洛外図」、「上杉家文書」をはじめとする上杉家の貴重な財宝を寄贈していただき、これを契機として、財団法人米沢上杉文化振興財団が設立され、当館の管理業務を委託することになりました。また、仙台市在住の山谷文仁氏からは、東北でも有数といわれる「昆虫標本」が寄贈されました。

このような数多くの貴重な資料の収蔵保管とその活用が当面する課題であり、将来の博物館の構想を検討するため、「歴史民俗博物館構想懇談会」を設置し、本市の特性に適合した新たな博物館の建設に向け、その第1歩を踏み出すこととなりました。

今後も、当館に寄せる市民の方々の期待に応えるべく、研鑽を積み、努力して参る所存ですので、関係各位のなお一層のご助言、ご教示を賜りますようお願い申し上げます。

平成3年3月

米沢市教育委員会

教育長 小 口 亘

館の概要

目的と沿革

米沢市立上杉博物館は、その前身として米沢郷土館・市立米沢郷土博物館・市立米沢博物館があった。それらは南置賜郡役所や市立図書館に併設されていたのであったが、昭和42年、市民の教養の向上と学芸および文化の発展を図るため、博物館施設として現在の位置に独立した館が建てられ名も米沢市立上杉博物館となって、そのあゆみを始めたのである。

当館では、当初の意趣もかんがみ、価値ある資料を収集・保管し調査研究に基づく展示を行って教育的配慮の下に一般の利用に供すること、人々の教養・調査研究・レクリエーション等に資するために必要な事業を行うこと、資料に関する調査研究を行うことを目的としている。

昭和5年10月	元南置賜郡役所に米沢郷土館設置。
昭和13年4月	市制50周年記念として米沢市に移管され市立図書館に併設。
昭和27年9月	博物館相当施設として登録、市立米沢郷土博物館と称す。
昭和30年9月	市立米沢図書館に移転（旧市立米沢図書館）
昭和37年7月	博物館法による設置条例制定、市立米沢博物館と改称。
昭和41年11月	丸ノ内一丁目4番13号に、市立米沢博物館新館完成。
昭和42年4月	博物館法による設置条例制定、米沢市立上杉博物館と改称。
昭和42年6月	博物館施設として登録。
昭和43年5月	社団法人上杉博物館協会設立。
平成2年3月	財団法人米沢上杉文化振興財団設立。

施設

総面積	460.8㎡
陳列室	129.6㎡
展示室(兼)ホール	126.6㎡
収蔵庫	51.84㎡
研究室	32.4㎡
事務室	9.72㎡
映写室	4.86㎡



平成元年度 博物館日誌

- H元、4、1 桜井三男館長退職、秋葉茂職員転出、河野佳文学芸員退職により後任に二宮幸雄館長、小林伸一職員、今泉ゆり子学芸員発令
- 4、20 「米沢の県・市指定文化財展」5月7日まで
- 5、2 市制施行100周年記念式典に出席の沖繩市長他来館
- 5、18 「市制100年の歩み写真展」6月9日まで
- 5、19 山谷文仁氏来館
- 5、22 (社)上杉博物館協会63年度会計監査
- 5、29 (社)上杉博物館協会理事会・総会
- 6、16 (財)日本美術刀剣保存協会辻本直男氏「第19回日本刀展」指導のため来館
- 6、17 「第19回日本刀展」7月16日まで
- 6、19 博物館実習(都留文科大文学部生1名・郡山女子大短大部生1名)6月24日まで
19日 博物館概説・市内見学 20日 埋蔵文化財発掘調査
21日 民俗資料の調査と収集 22日 博物館見学・資料整理
23日 資料運搬・市内施設見学 24日 実習のまとめ(フリートーク)・市内見学
- 6、20 (社)上杉博物館協会理事会
- 6、25 刀の手入れと保存について指導講習会
- 7、9 刀の手入れと保存について指導講習会
- 7、16 (財)日本美術刀剣保存協会辻本氏来館
- 7、22 「関野準一郎奥の細道版画と芭蕉関係資料展」8月27日まで
- 8、2 研究室標本棚新設工事着工
- 8、23 米沢市文化財保護委員会来館
- 8、31 研究室標本棚新設工事完了
- 9、4 市備品検査
- 9、5 「上杉鷹山公とその時代」10月12日まで
高鍋町、東南置賜教育事務所より視察のため来館
- 9、7 新潟県六日町教育長視察のため来館
山谷コレクション整理を依頼した草刈広一氏・行方崇氏作業開始
- 9、19 福島市立渡利小学校6年生見学のため来館
- 9、20 茨城県常陸太田市教育委員会視察のため来館
- 10、18 新潟県塩沢町社会文教委員会視察のため来館
- 10、19 「古陶磁展」11月12日まで
- 10、26 茅ヶ崎市議会、東京都文京区職員視察のため来館
- 10、29 「古陶磁展」講演会(臨泉閣にて)
- 11、8 玄関シャッター新設及び展示室・玄関・ホール・湯沸室・局長室・事務室、塗装工事着工
来年度事業計画打合わせ
- 11、21 (社)上杉博物館協会研修旅行(～迄)
- 11、28 米沢市史編さん委員小野氏「米沢市史民俗編」のため館藏品写真撮影
- 12、7 シャッター新設及び内部塗装工事完了
- 12、22 (社)上杉博物館協会会計監査
- 12、25 (社)上杉博物館協会理事会
- 12、27 大石田町教育委員会より視察のため来館
- H2、1、10 (社)上杉博物館協会臨時総会
- 1、19 「奥州みちのく街道展」(東京都・東京ルネッサンス推進委員会主催)のため館藏品写真撮影
- 1、23 市立米沢図書館に仮保管されていた本館所蔵資料「杉原文書」戻る
- 2、6 川西町文化財保護協会より細井平洲について調査のため来館
- 3、7 市立米沢図書館より「上杉鷹山公物語」写真掲載について来館
- 3、14 乃村工芸社、館蔵資料「興譲館の図」写真撮影(県農林水産部からの依頼)・資料収集審査会
- 3、22 (社)上杉博物館協会解散
(財)米沢上杉文化振興財団設立
市立上杉博物館協議会
- 3、27 (財)米沢上杉文化振興財団役員辞令交付

平成元年度事業

展 示

(1) 米沢の県・市指定文化財展

米沢は歴史と文化の町として知られ数々の文化財が受け継がれ保存されてきた。平成元年、市制施行百周年という節目の年を迎えるにあたり、先人の貴重な足跡たる文化財を紹介し米沢の歩みを考える機会にしようと、市制100周年記念事業として、本展は企画されたものである。

平成元年4月12日現在、本市における指定文化財は、国指定20件、県指定27件、市指定28件合計75件を数える。今回は国指定は除くものの、史跡・天然記念物についても写真パネルを使用するなどして県指定・市指定文化財のほとんどを紹介することができた。市指定民俗芸能「万世梓山獅子踊り」はビデオを用意して常時放映し、またコピー印刷ではあったが解説パンフレットを作製し無料配布した。

会 期 平成元年4月20日～5月7日
主 催 米沢市立上杉博物館
社団法人上杉博物館協会
入館者数 一般 2,634人 学生 242人 小中生
519人 団体一般 62人 団体学生
21人 計 3,478人



ポスター

出品目録

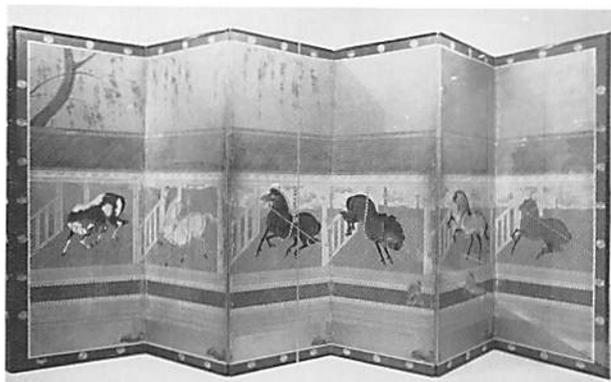
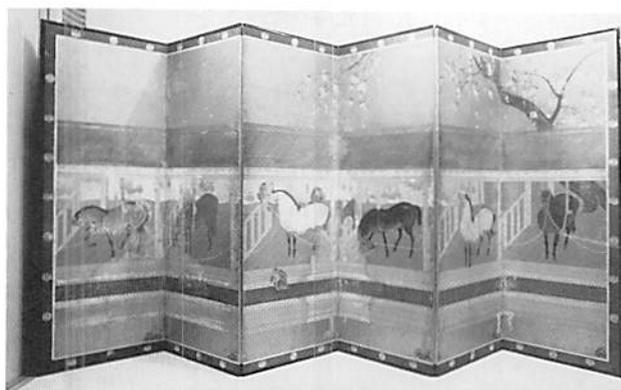
〈県指定文化財〉

種 目	名 称	所 有 者
絵 画	紙本著色既図 六曲屏風	上杉隆憲氏（現在は米沢市）
〃	紙本淡彩近江八景金沢八景図	中山寿男氏
工芸品	青磁牡丹唐草凸花文瓶	上杉神社
〃	素懸水浅葱糸威腹巻	〃
〃	紫糸威五枚胴具足	〃
〃	色々威大袖	〃
〃	素懸紫糸威黒塗板物五枚胴具足	宮坂考古館
〃	素懸白綾威黒皺韋包板物腹巻	〃
〃	浅葱糸威黒皺韋包板物二枚胴具足	〃
〃	本小札紺糸威胴丸	〃
〃	浅葱糸威錆色塗切付札二枚胴具足	〃
〃	脇差 銘長谷部国重	金子成夫氏
〃	金銅舍利塔	法音寺
〃	金銅五鈷鈴	〃
〃	金銅五鈷杵	〃
彫 刻	木造門神坐像	成島八幡神社
〃	木造阿弥陀如来立像	善光寺
〃	木造伝長井時広夫妻坐像	〃
書 跡	上杉謙信筆祈願文〈複製〉	（上杉神社）
史 跡	直江兼続夫妻の墓〈写真〉	（林泉寺）
〃	武田大膳太夫信清の墓〈写真〉	（武田茂）
天然記念物	長町裏のエゾエノキ〈写真〉	（熊野大権現）
〃	西明寺のトラノオモミ〈写真〉	（西明寺）
〃	山上の大ワク〈写真〉	（遠藤房雄）

〈市指定文化財〉

工芸品	火繩銃30匁筒	宮坂考古館
〃	絵馬 黒漆金蒔絵	小菅一宮神社
〃	古九谷焼 五彩虎文大皿	後藤弘
書 跡	鷹山公儉約誓詞	白子神社
典 籍	米沢善本	米沢市教育委員会
史 跡	戸塚山古墳195基〈写真〉	（地権者27名）
〃	谷地河原堤防（直江石堤）〈写真〉	（建設省）
民俗芸能	万世梓山獅子踊り〈写真・ビデオ〉	（会長 宍戸昭夫）
考古資料	土偶〈写真〉	（米沢市教育委員会）
〃	鍔帯金具	米沢市教育委員会
〃	刀子	〃

種 目	名 称	所 有 者
考古資料	鉄鏃	米沢市教育委員会
"	火鑽臼	"
"	紡錘車 紡錘杵	"
"	木筒	"
"	円面硯	"
天然記念物	ホタル生息地〈写真〉	(国)
"	吾妻の白猿〈写真〉	
彫 刻	木造勢至菩薩坐像〈写真〉(現在は県指定)	(千眼寺)
"	木造阿弥陀如来立像〈写真〉(現在は県指定)	(")
"	木造十一面観音坐像	西明寺
"	木造大日如来坐像	昌伝庵
歴史資料	白子大明神扁額	白子神社
"	「かてもの」版木	市立上杉博物館
"	「嚶鳴館遺稿」版木	"
"	白子神社鬼瓦	白子神社
有形民俗文化財	行屋資料	(財)農村文化研究所



(2) 市制100年の歩み写真展

平成元年4月、本市は全国31都市と共に市制施行100周年を迎えた。このことに因んで、年間を通じ各種のイベントが展開されたが、そのひとつが標題の写真展である。

市広報課所有のフィルムは、昭和20年代後半からのものなので、それ以前の写真については広く市民に呼びかけ拝借した。

写真は殆んどがモノクロで、サイズは全紙パネル版とした。枚数は約150点。内容は、人物、くらし、風俗、町並、建物などで、具体的に数例をあげてみると、歴代市長の顔、明治30年に初めて建設された市庁舎、大正6・8年の大火、大正10年はじめて走った12人乗りの乗合いバス、昭和11年の未曾有の大豪雪、東京オリンピック聖火リレー等々である。写真の下には数行の解説文を添えた。

この種の写真展を当館で開催したのは初のことであり、どういう反響か心配な向きもあったが、結構スムーズに受け入れられたようで、訪れた観覧者は、一枚一枚食い入るように見つめておったようだった。写真は、その場面、その時代を端的に物語るものであり、市制100年のあゆみをわかりやすい映像でアピールした点で、いい企画だったと評価している。



昭和34年5月3日、市制施行70周年を記念しての広告仮装行列が市庁舎前に行く。

会期	平成元年5月18日～6月9日
主催	米沢市立上杉博物館 社団法人上杉博物館協会 米沢市教育委員会 山形県教育委員会
共催	2,255人 入場無料



ポスター

(3) 第19回日本刀展—新々刀から現代刀まで—

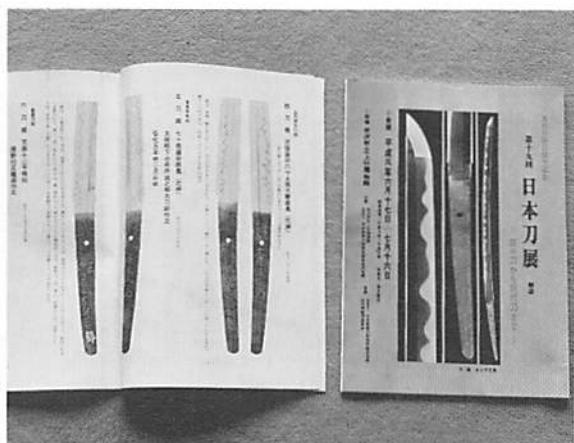
これまで本館では、(財)日本美術刀剣保存協会の協力を得て、昭和46年から毎年さまざまなテーマで日本刀展を開催し、今年で第19回を数えるに至った。

今回は「新々刀から現代刀まで」と題してその流れと作風を鑑賞することとした。江戸時代寛政頃から慶応末年までは日本刀史上では新々刀の時代とされている。長い泰平の世から西洋の脅威、内政の不安定等により騒然となったこの時期、刀剣界でも新しい動きが起った。それまでの江戸期の作刀に疑問を持ち、鎌倉期の作法に帰ろうとする復古新刀説が唱えられたのである。その提唱者が羽前国赤湯産の水心子正秀であった。展示資料はこの正秀をはじめ、正秀の弟子大慶直胤・細川正義・加藤綱英・綱俊兄弟、固山宗次、石堂運寿是一、また山浦清磨、清磨の弟子の栗原信秀・斎藤清人、左行秀、南海太郎朝尊、但耆守正幸等、この時代に活躍した刀工の作が揃った。刀工の技術向上が評価されている現代刀では、宮入昭平、月山貞一、隅谷正峯、吉原義人等の作を集めた。

会期中6月25日・7月9日には、刀の手入れと保存についての指導講習会を行った。

会期	平成元年6月17日～7月16日
主催	米沢市立上杉博物館 社団法人上杉博物館協会 財団法人日本美術刀剣保存協会米沢支部
共催	山形県教育委員会
後援	財団法人日本美術刀剣保存協会本部
入館者数	一般 1,371人 学生 105人 小中生 56人 団体一般 276人 計 1,808人

『米沢市制百周年記念第19回日本刀展—新々刀から現代刀まで—』解説パンフレット作成・販売



解説パンフレット

出品目録

〈新々刀の部〉

刀	銘	水心子正秀 出礪閃々光芒如花 二腰面腕一割若瓜	長さ	二尺二寸九分	(財)日本美術刀剣保存協会蔵	
重要刀剣	脇指	銘	於東大城之下 水心子正日出造之 享和二年二月日	長さ	一尺八寸八分五厘	〃
刀	銘	大慶莊司直胤(花押) 文化八年仲秋	長さ	二尺二寸一分	〃	
県指定文化財	刀	銘	天保癸卯六十五翁 大慶直胤(花押) 靈の緒のきりゆくまでは海山に 身をつくしても道やまなばん	長さ	二尺二寸九分	後藤三郎氏蔵
重要美術品	刀	銘	七十翁藤直胤(花押) 太政殿下台命所造之 御太刀副作也 弘化五年申二月日依	長さ	二尺三寸五分	個人蔵
重要刀剣	刀	銘	天保十二年仲秋 應野村正峰需作之 水心子正次(花押)	長さ	二尺五寸七分五厘	(財)日本美術刀剣保存協会蔵
重要刀剣	刀	銘	次郎太郎直勝 應佐伯孫太夫藤原正紀需 天保九年二月日	長さ	二尺四寸四分	〃
刀	銘	作陽士細川正義 於東都湯島社辺造 天保十一年庚子年孟夏	長さ	二尺七寸一分	個人蔵	
刀	銘	作陽幕下士細川正義(刻印) 依萩野靜里好造 行年七十有三才 安成五戊午年二月吉日	長さ	二尺一寸六分	(財)日本美術刀剣保存協会蔵	
脇指	銘	作陽幕下士細川正義(刻印) 依萩野靜里好造 安成五戊午年二月吉日	長さ	一尺五寸六分	〃	
刀	銘	国秀 寛政十二年二月日	長さ	二尺二寸九分	個人蔵	
刀	銘	於東部加藤越後頭国秀 文化八年八月吉日	長さ	二尺二寸二分	(財)日本美術刀剣保存協会蔵	
刀	銘	出羽米沢住綱英 文化六年八月日 於江戸造之	長さ	二尺三寸一分	個人蔵	
脇指	銘	於東都綱英作之 文化六年四月日	長さ	一尺四寸六分	〃	
刀	銘	於東部加藤綱俊作之 嘉永四年八月日 運壽は一洋之	長さ	二尺三寸四分	〃	

	刀	銘	於江府長運齋綱俊作之 嘉永元年十月吉日 同年廿三日 太々土壇拂	長さ	二尺三寸八分	個人藏
重要刀剣	刀	銘	固山宗兵衛宗次 天保八酉年十二月十九日 於千住高車土壇拂	長さ	二尺三寸五分	(財)日本美術刀剣保存協会藏
	刀	銘	為村上重君 石堂運壽是一精鍛造之 嘉永七年甲寅歲二月日	長さ	二尺三寸四分	〃
	槍	銘	藤原是一精鍛作之 安政五年八月日	長さ	一尺三寸八分	個人藏
	刀	銘	羽州米沢産行房 安政四年五月日	長さ	二尺七寸五分	〃
重要刀剣	刀	銘	清磨	長さ	二尺四寸一分五厘	(財)日本美術刀剣保存協会藏
重要刀剣	刀	銘	栗原謙司信秀 安政二年八月日	長さ	二尺三寸二分五厘	〃
	刀	銘	平信秀 文久元年十月日	長さ	二尺二寸九分	個人藏
	刀	銘	於江都藤原清人作之 慶應三年二月日	長さ	二尺三寸三分	(財)日本美術刀剣保存協会藏
	脇指	銘	源正雄 安政六年二月日 いち岸内砂鉄造	長さ	一尺三寸	〃
重要刀剣	刀	銘	筑州住左行秀造之 嘉永二年二月日 於土佐応橋本勝成好	長さ	二尺五寸四分	〃
重要刀剣	刀	銘	於東都左行秀造之 慶應二年二月吉日	長さ	二尺七寸八分	〃
	脇指	銘	筑州信國源義昌 文政四年八月吉日	長さ	一尺三寸一分	〃
	短刀	銘	於皇都朝尊造 天保十三年十一月日	長さ	九寸九分	〃
	刀	銘	横山加賀介藤原祐永 天保十年二月日 菊花文 一 備州長船住	長さ	二尺四寸	〃
重要刀剣	刀	銘	伯耆守平朝臣正幸 享和二年戊八月	長さ	二尺四寸一分五厘	〃
重要刀剣	刀	銘	為宮本左一郎囑 直江助政造 文化十一年八月日	長さ	二尺四寸八分	〃
重要刀剣	刀	銘	水戸住直江助政 文化十一年八月日	長さ	二尺三寸六分	個人藏

<現代刀の部>

刀	銘	宮入昭平作 昭和丁未年八月日	長さ	七六・〇センチ	(財)日本美術刀剣保存協会蔵
脇指	銘	太阿月山源貞一作(花押) 日刀保たたら焔以 初玉鋼試作之 昭和五十三年二月吉日	長さ	三〇・五センチ	〃
刀	銘	傘笠両山子正峯作也 庚申年霜月日 以日刀保多々羅胴下 ノ下作也	長さ	七四・二センチ	〃
刀	銘	東都住八鍛靖武作 昭和五十三年度創業 日刀保タタラ玉鋼試作力 昭和五十五年七月吉日	長さ	七一・七センチ	〃
直刀	銘	俊平作 昭和五十四年十一月三日 以伊勢神宮御神宝大刀余鉄	長さ	七九・六センチ	〃
短刀	銘	陸中國住清房作 昭和戊辰歳八月日	長さ	二七・〇センチ	〃
刀	銘	義人作 昭和五十八年二月吉日	長さ	七三・四センチ	〃
刀	銘	武蔵住國家作 平成元年夏吉日	長さ	六八・〇センチ	〃
刀	銘	越後國大野義光作之 高松宮賞受賞作 昭和五十八年春 為齊藤家重代	長さ	八〇・一センチ	〃
刀	銘	筑州住藤原宗勉作 昭和五十八年二月吉日	長さ	七二・三センチ	〃
刀	銘	源盛吉 昭和五十五年十月日 昭和五十三年度操業 日刀保たたら玉鋼試作刀	長さ	七一・〇センチ	〃
太刀	銘	巧偽不如拙誠上林恒平作 太田家重代昭和癸亥年春吉祥	長さ	七二・一センチ	個人蔵
脇指	銘	恒平作 昭和六十一年一月日影仙壽	長さ	三一・二センチ	〃

(4) 関野準一郎奥の細道版画と芭蕉関係資料展

本年は俳聖芭蕉が「奥の細道」を旅してから丁度300年にあたる。これを機に県では「山形県奥の細道紀行300年祭」を企画し、各市町村・企業等は、地域に根ざした「奥の細道」をそれぞれの観点でとらえ、「文化による観光開発」「地域社会・文化・経済の発展」を目的に様々なイベントを開催した。本展はこの一環として行われたものである。

奥の細道版画の部では、関野氏の御遺族が蔵する「奥の細道」60点を借り受け、展示した。版画界の重鎮であった関野準一郎は、今純三・恩地孝四郎等を師とし、木版・銅版のみならず油彩でも見るべき作品を残し、文章も巧みで版画論・人物論の著作も多い。「奥の細道」(1978～85)「東海道五十三次」(1960～74)等日本の街道シリーズをライフ・ワークとしていた。なお、毎日新聞社主催「関野準一郎版画展」が平成元～2年にかけて開催されており、「奥の細道」は同展の出品作品でもあった。

芭蕉関係資料の部では、芭蕉150回忌追善時の資料・置賜出身彫刻家による芭蕉像・市内の芭蕉句碑写真パネルや句碑分布図・その他米沢に残る関係資料を中心に構成した。武門を中心として発展し貞徳・芭蕉の精神を連綿と受けついだといわれる米沢の俳諧資料の一端を紹介する機会となった。

会期中、館内に投句箱を設け、米沢市観光キャンペーン推進協議会・米沢俳句会・小野川温泉観光協議会・(社)上杉博物館協会が主催して俳句を募集したところ、194句の応募があり、優秀作31句を表彰した。

また、入館者には抽選で米沢の特産品をプレゼントする企画も行った。

PRのため入館料割引のチラシを配布し、夏休み中であるので割安な親子券も発行した。

会 期 平成元年7月22日～8月27日
主 催 社団法人上杉博物館協会
米沢市立上杉博物館
米沢市 米沢市教育委員会
毎日新聞社
山形県奥の細道紀行300年祭企画実行委員会
置賜広域観光協議会
米沢市観光キャンペーン推進協議会
入館者数 一般 2,886人 学生 441人 小中生 867人 団体一般 206人 団体小中生 47人 会員その他 114人 計4,561人

パンフレット



ポスター



出品目録

〈関野準一郎奥の細道版画の部〉

浅草	浅草寺 (1983年5月)	鎌先	湯治場 (1984年4月)
深川	隅田川 (1985年2月)	鳴子	尿前関 (1984年2月)
両国	花火 (1985年4月)	山刀伐峠	赤い鳥 (1984年2月)
蔵前	国技館 (1985年5月)	尾花沢	雪の日暮れ (1978年10月)
吉原	花魁道中 (1985年4月)	立石寺	山門 (1984年10月)
上野	不忍池 (1983年12月)	最上川	戸沢 (1984年10月)
千住	日暮れ (1985年2月)	最上川	漣 (1983年9月)
草加	松原 (1985年2月)	鳥海山	豊穰 (1984年12月)
室の八島	達磨燃ゆ (1981年9月)	象潟	刈田夕陽 (1984年1月)
栃木	巴波川 (1981年8月)	千満珠寺	蓮沼 (1985年1月)
日光	陽明門 (1982年11月)	酒田	暑い日 (1982年11月)
那須野	田植 (1982年10月)	羽黒山	杉参道 (1983年3月)
殺生石	野馬 (1984年4月)	月山、湯殿山	遠望 (1984年10月)
塩原	紅葉 (1981年6月)	鼠ヶ関	棚 (1981年5月)
白河	関跡 (1984年7月)	新潟	北越雪原 (1984年5月)
須賀川	残雪 (1984年4月)	佐渡	荒海 (1984年4月)
三春	デゴ屋敷 (1984年6月)	佐渡	相川 (1980年4月)
庚申坂	遊廓廃墟 (1984年9月)	親不知	波際 (1984年12月)
猪苗代湖	磐梯山 (1984年9月)	市振	田舎の宿 (1982年5月)
福島	美術館 (1984年6月)	富山湾	蜃気楼 (1985年5月)
飯坂	共同風呂への石段 (1978年1月)	高岡	驟雨 (1985年2月)
飯坂	穴原 (1984年1月)	金沢	盛夏 (1985年4月)
笠島	年輪 (1983年12月)	金沢	雪つり (1983年6月)
仙台	青葉城 (1983年12月)	山中	笠の露 (1984年5月)
塩釜	表参道の石段 (1984年1月)	永平寺	勅使門 (1984年5月)
松島	島々 (1983年7月)	敦賀	小貝と萩の塵 (1981年7月)
瑞巖寺	洞窟遺跡 (1984年4月)	色浜	曼珠沙華 (1984年9月)
石巻	大漁船 (1978年11月)	近江八幡	琵琶湖 (1985年1月)
平泉	中尊寺 (1983年8月)	石山寺	芭蕉庵前 (1985年5月)
衣川	夏草 (1984年12月)	大垣	大尾 (1985年1月)

〈芭蕉関係資料の部〉

松川舟運図屏風「最上川」六曲一双	古 泉 斎 筆	宮坂考古館蔵
木彫芭蕉像「野分」	鈴木 実 作	高島町蔵
木彫芭蕉像「一枚一笠」	鈴木 実 作	米沢信用金庫蔵
木彫芭蕉翁	鈴木 実 作	個人蔵
ブロンズ芭蕉像	阿 部 誠 作	〃
ブロンズ芭蕉像	小野田高節 作	〃
句碑パネル写真 一物いへは口唇寒し秋の風一		幸徳院境内

- | | | | |
|-------------------|------------------|---------|-------------|
| 句碑パネル写真 | —観音の曇見やりつ花の雲— | | 幸徳院境内 |
| " | —名月や池をめぐりて夜もすから— | | 心光寺境内 |
| " | —名月の花かと思へて綿帛— | | " |
| " | —春もや、気色ととのふ月と梅— | | (株)浜田庭内 |
| " | —山中や菊は手折らぬ温泉の匂ひ— | | 白布温泉東屋庭内 |
| " | —しはらくは花の上なる月夜かな— | | 桃源院境内 |
| " | —名月や池をめぐりて夜もすから— | | 極楽寺境内 |
| 筒描刺子 | —閑かさや岩にしみ入る蟬の声— | 歳園工房作 | |
| " | —五月雨を集めて早し最上川— | " | |
| " | —眉掃きを俤にして紅粉の花— | " | |
| 芭蕉翁追善掛額 | | 天保14年奉納 | 笹野観音堂(幸徳院)蔵 |
| 切り絵 おくのはそ道より「最上川」 | | 宮田雅之作 | 新山慶美氏蔵 |
| 芭蕉翁150回忌追善100韻 | | | 飯沢家蔵 |
| 松尾芭蕉高弟像 | | 狩野常信筆 | 栗林家蔵 |
| 句集「おくのはそ道」 | | 素龍筆本 | 清水家蔵 |
| 尾花沢連歌額「おきふしの巻」 | | | 尾花沢市提供 |
| " | 「すすしさの巻」 | | " |
| 奥の細道画卷(複製) | | | 米沢市立上杉博物館蔵 |
| 奥の細道屏風(複製) | | | " |
| 俳画色紙 | | 丹野良雄筆 | 歳園工房蔵 |
| ブロンズ芭蕉像 | | | 米沢市立上杉博物館蔵 |



(5) 上杉鷹山公とその時代

市制100周年を機に、中興の名君といわれる米沢九代藩主上杉治憲（鷹山）の生涯と業績を再確認してみようと企画された特別展である。ただの資料陳列にとどまらぬよう、鷹山の生涯をストーリー風に脚色するとともにその業績をいくつかのセクションに分けて考察し、鷹山の右腕として活躍した家臣たちについても表現しようとした。また今回は100周年記念特別展ということで、民間の方々にも実行組織構成員として企画に加わっていただいた。

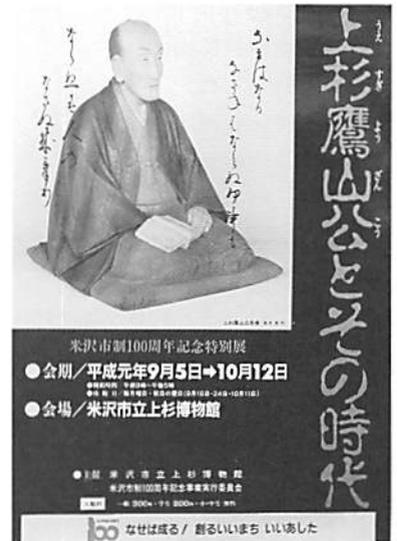
展示構成は「上杉鷹山の登場」「家臣たち」「農村復興」「産業奨励」「思想と教育」「家族と生活」そして鷹山の肖像を集めた「さまざまな上杉鷹山像」の各部門から成り、他に鷹山の一生を総括した年表パネルを製作した。これは見学者の興味をひくため18のシーンを絵で表した絵年表とした。解説パネルもなるべく平易な文章でと配慮した。

展示資料は国指定重要文化財4件・県指定文化財1件・市指定文化財4件を含む80余件、他に写真・複製が20余件であり、初めて鷹山と出会う人から研究者まで興味深い特別展となったと思う。館の入口には芋（米沢織の源流である青芋の織物の原料）や五加（若菜は食用になるため鷹山が垣根に奨励したという）が植えられた。

小学生にも楽しく見学してもらおうと、展示をみながら解答するクイズ形式の「質問シート」を準備し、小中学生入館無料としたが、小中学生の入館者数が思ったより少なく残念であった。

会期	平成元年9月5日～10月12日
主催	米沢市立上杉博物館 社団法人上杉博物館協会 米沢市制100周年記念事業実行委員会
入館者数	一般 2,590人 学生 256人 小中生 228人 団体一般 710人 団体学生 57人 会員その他 245人 計4,086人

『市制100周年記念特別展 上杉鷹山公とその時代』図録作成・販売



ポスター



図録

出品目録

◎国指定重要文化財 ○県指定文化財 △市指定文化財

<上杉鷹山の登場>

- 江戸城下図屏風 宮坂考古館蔵
- ◎三好善大夫重道上言集 上杉隆憲氏蔵(現在は米沢市蔵)
- ◎三好善大夫重道奉贖書 上杉隆憲氏蔵(現在は米沢市蔵)
- ◎従四位下位記 上杉隆憲氏蔵(現在は米沢市蔵)
- ◎口宣案 上杉隆憲氏蔵(現在は米沢市蔵)
- 上杉家歴代藩主像 米沢市立上杉博物館蔵
- 素懸水浅葱糸威腹巻 上杉神社蔵
- 米沢城下絵図 明和六年 市立米沢図書館蔵
- 治憲公御代々御式目 卷之十五 市立米沢図書館蔵
- 御道具質入帳 市立米沢図書館蔵
- 上杉治憲和歌 上杉神社蔵
- 春日社誓詞 上杉神社蔵
- △上杉治憲儉約誓詞 白子神社蔵
- 白子神社(写真) 白子神社蔵
- 色部照長儉約誓詞 白子神社蔵
- 上杉勝承儉約誓詞 白子神社蔵
- 火繩銃三十匁筒・玉造り道具 米沢市立上杉博物館蔵

<家臣たち>

- 竹俣美作宛誓詞 米沢市立上杉博物館蔵
- 細井平洲書 平山孫兵衛氏蔵
- 薬科松伯肖像 米沢市立上杉博物館蔵
- 細井平洲肖像 米沢市立上杉博物館蔵
- 竹俣当綱肖像 米沢市立上杉博物館蔵
- 竹俣家門(写真) 米沢市立上杉博物館蔵
- 竹俣当綱の墓(写真)
- 苳戸善政肖像 米沢市立上杉博物館蔵
- 苳戸善政書 米沢市立上杉博物館蔵
- 嚶鳴館遺稿 市立米沢図書館蔵
- △「嚶鳴館遺稿」版木 米沢市立上杉博物館蔵

<農村復興>

- 籍田之碑(写真) 平山孫兵衛氏蔵
- 籍田の礼(写真) 米沢市立上杉博物館蔵
- 籍田之遺跡(写真)
- 褒状
- 黒井忠寄肖像
- 黒井堰(写真)

塩野・宮井・小瀬・藤泉村々黒井堰御絵図 寛政七年
飯豊山穴堰絵図 文政元年
老婆の手紙
老婆が送った足袋

市立米沢図書館蔵
市立米沢図書館蔵
宮坂考古館蔵
宮坂考古館蔵

<産業奨励>

米沢藩主手控 安永七年
渡辺万之丞、同儀右衛門に加増書付 天明六年
返済金差引勘定手形 文化十二年
遊具・弾弓（上杉鷹山より拝領の弓）
高機
芋・青芋
帷子
横麻
籠門
絹縮
楮

(財)重要文化財渡辺家保存会蔵
(財)重要文化財渡辺家保存会蔵
(財)重要文化財渡辺家保存会蔵
(財)重要文化財渡辺家保存会蔵
桑島直二氏蔵
原始布古代織参考館蔵
原始布古代織参考館蔵
原始布古代織参考館蔵
原始布古代織参考館蔵
原始布古代織参考館蔵

<思想と教育>

興讓館の図
神保蘭室像
学館絵図（安政四年）
友于堂扁額
興讓館扁額（写真）
総評
「学則」扁額（写真）
興讓館遺跡碑（写真）
興讓の碑（写真）
山形県立興讓館高等学校（写真）
嚶鳴館遺草

米沢市立上杉博物館蔵
米沢市立上杉博物館蔵
市立米沢図書館蔵
米沢市立上杉博物館蔵
山形県立興讓館高等学校蔵
米沢市立上杉博物館蔵
山形県立興讓館高等学校蔵

△「かてもの」版本

△流虬百花譜
解体供養碑（写真）
伝国の辞（複製）
上杉鷹山書状
餐霞館の図
餐霞館跡（写真）

市立米沢図書館蔵
米沢市立上杉博物館蔵
市立米沢図書館蔵

米沢市立上杉博物館蔵
渡部恵吉氏蔵
市立米沢図書館蔵

◎普門院（写真）（上杉治憲敬師郊迎跡）

一字一涙碑拓本
細井平洲使用道具

米沢市立上杉博物館蔵
普門院蔵

<家族と生活>

白絹綸子地松竹梅鶴亀擢疋田刺繡打掛
朱塗漆器
銅製金箔婚礼調度
藍地手描友禪帷子
大平溪流
上杉鷹山書
上杉鷹山女訓八種
笹野一刀彫
相良人形
成島焼

椿貞雄筆

宮坂考古館蔵
米沢市立上杉博物館寄託
米沢市立上杉博物館寄託
宮坂考古館蔵
米沢市立上杉博物館蔵
平山孫兵衛氏蔵
市立米沢図書館蔵
米沢市立上杉博物館蔵
米沢市立上杉博物館蔵
米沢市立上杉博物館蔵

◎上杉鷹山・顕孝墓（写真）（米沢藩主上杉家墓所）

お豊の方・寛之助廟所（写真）
上杉神社（写真）
松岬神社（写真）

<さまざまな鷹山像>

上杉鷹山像
上杉鷹山像
上杉鷹山肖像
上杉鷹山肖像
上杉鷹山肖像
上杉鷹山肖像
上杉鷹山肖像
上杉鷹山肖像
上杉鷹山デッサン
上杉鷹山蟻山像

鈴木実作
阿部誠作
小田切寒松軒筆
信好筆
矢尾板惟一筆
左近司惟春筆
上杉熊松筆
作者不明
目賀多信濟筆
作者不明

米沢市立上杉博物館蔵
個人蔵
小貫幸太郎氏（写真）蔵
山岸才一氏蔵
上杉神社蔵
米沢市立上杉博物館蔵
米沢市立上杉博物館蔵
米沢市立上杉博物館蔵
米沢市立上杉博物館蔵
米沢市立上杉博物館蔵

上杉鷹山関係書籍

市立米沢図書館蔵

初入部の図
愛宕山雨乞いの図
七家騒動の図
隠退の図
黒井堰落成の図
敬師郊迎の図
養蚕の図
機織の図

狩野文信筆
狩野文信筆
狩野文信筆
狩野文信筆
狩野文信筆
狩野文信筆
狩野文信筆
狩野文信筆

米沢市立上杉博物館蔵
米沢市立上杉博物館蔵
米沢市立上杉博物館蔵
米沢市立上杉博物館蔵
米沢市立上杉博物館蔵
米沢市立上杉博物館蔵
米沢市立上杉博物館蔵
米沢市立上杉博物館蔵

(6) 古陶磁展

本展も市制100周年記念特別展として開催された。今年発会10周年を迎えることとなった美術愛好者の集まりである米沢蕾の会とタイアップしての事業であった。

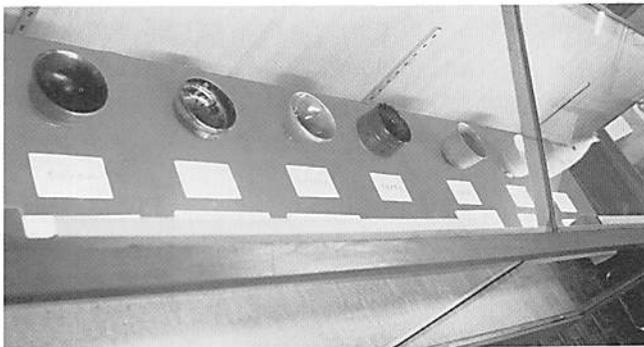
陶磁器の美しさを紹介するとともに、創樹社美術出版を通じて中央で活躍中の研究者の方々とコンタクトをとり、中央の動きを当地で感じてみることも目的とした。

会期中、小松正衛（全国良寛会副会長・小松古美術研究室）、出川直樹（工芸評論家）の二氏を講師に招き、講演会を行った。今回の展示資料も、小松氏、出川氏、それに伊東祐淳氏（日本陶磁協会常任理事）のコレクションより出品していただいたものである。聴講者は蕾の会会員を中心とした30名程であった。

○開催日・会場・演題は次の通り。

10月29日 上杉神社境内臨泉閣
 小松正衛氏「日本人の美意識」
 出川直樹氏「民芸理論の見直し」

会 期 平成元年10月19日～11月12日
 主 催 社団法人上杉博物館協会
 米沢市立上杉博物館
 米沢蕾の会
 入館者数 一般 952人 学生 41人 小中生 58人
 団体一般 165人 会員その他 135人 計 1,351人



ポスター

出品目録

〈伊東祐淳氏コレクション〉

明初染付青磁八稜皿

嘉靖染付刻之碗（2点）

耀州窯青磁碗

灰被天目茶碗

真葛原道八作楽焼色絵皿

桃源焼色絵皿（2点）

伊万里（あるいは高取）焼の皿

伊万里（あるいは平佐）焼の醤油德利

岩国焼染付皿

〈小松正衛氏コレクション〉

漢緑釉小壺

漢緑釉狗

漢緑釉狗（小）

漢褐釉中壺

隋白磁碗六客盤付

宋白磁水注

宋白磁香炉（3点）

元磁州窯馬上杯

宋越州窯四嘴壺

元磁州窯猫水滴

明天啓染付皿五客

明人物染付小瓶

明狀元及弟碗

明嘉靖染付中壺

李朝白磁鉢

李朝無地刷毛目茶碗

李朝染付墓誌石

三島茶碗

李朝白磁中壺

李朝白磁染付小壺

古瀬戸茶碗

黒織部茶碗

瀬戸尾呂茶碗

立鶴茶碗

古瀬戸茶碗

萩唐人笛茶碗

伊万里染付長皿五客

伊万里色絵角德利

古伊万里赤絵向付五客

信楽德利

流球色絵德利（2点）

〈出川直樹コレクション〉

唐邢州窯白磁把手付弁口瓶

宋定窯陰刻蓋付壺

元磁州窯白磁瓢型瓶

宋影青陽刻文瓶

明景德鎮窯白磁素文壺

白磁柿形合子（明末～清初）

明吳州窯白磁宝珠香合

高麗白磁平碗（高麗中期）

李朝初期白磁蓋付壺（道馬里窯）

李朝初期白磁小碗（道馬里窯）

李朝中期面取壺（金沙里窯）

李朝染付陽刻十長生文四方瓶（分院窯）

李朝陽刻梅文角水滴（分院窯）

李朝白磁透刻竹文角筆筒（分院窯）

李朝白磁四方香炉（分院窯）

李朝白磁十面取瓶（金沙里窯）

安南白磁耳付小壺（14～15世紀・ベトナム）

ホワイト・クメール竹節形茶入（11世紀・カンボディア）

初期伊万里白磁鎬文壺（江戸初期）

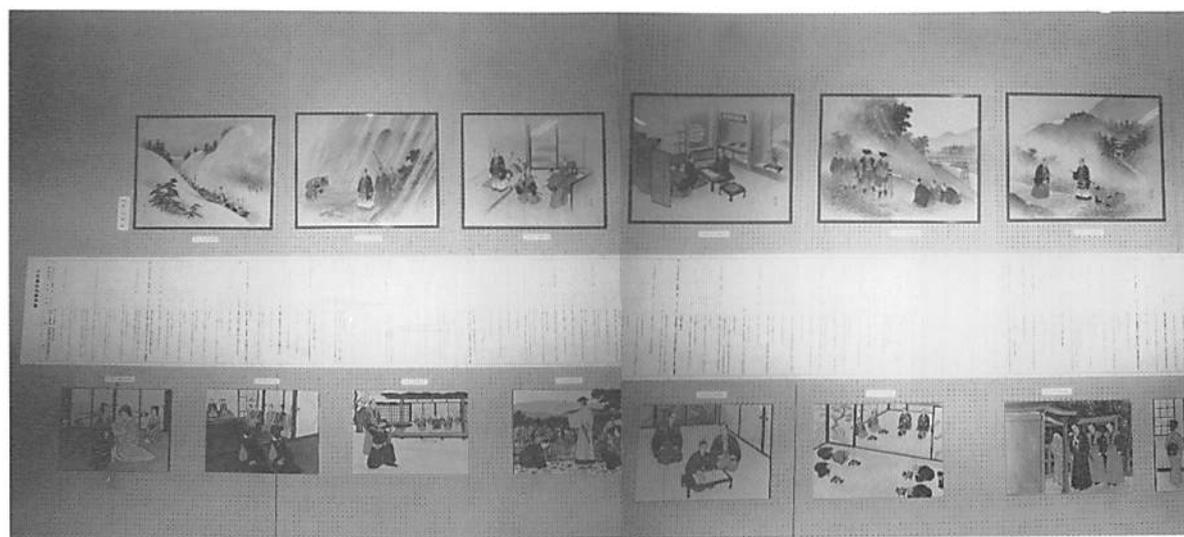
伊万里白磁ガリボット（インドネシアより請来）

(7) 館蔵品展

当館では、冬期間は企画展を開催せず、館蔵品の展示を行っている。会期は長期間となるが、展示換えの時期・展示テーマ等については特に定めてはいない。だが、入館者に観光客が多いこと、上杉博物館という名称からの期待により、上杉関係資料・武具甲冑類の展示要望が強く、そのあたりを加味した展示となる。

展示資料について理解を深めていただくために、B5版の「解説シート」を置いている。甲冑シリーズ（甲冑の変遷、甲冑各部分の名称）・郷土作家シリーズ（下条桂谷、椿貞雄、土田文雄、我妻碧宇）などがあり、自由に持ち帰る式のものである。

会 期	平成元年4月1日～4月11日 平成元年11月28日～12月27日 平成2年1月5日～3月31日
主 催	米沢市立上杉博物館 社団法人上杉博物館協会
入館者数	一般 3,026人 学生 405人 小中生 339人 団体一般 937人 団体学生 40人 団体小中生 21人 会員その他 10人 計 4,778人



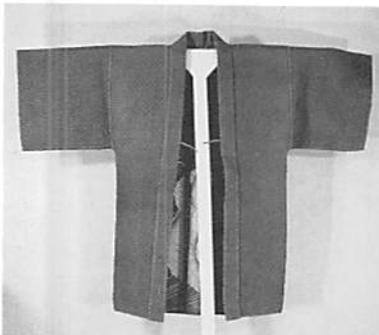
収 集

元年度受入資料

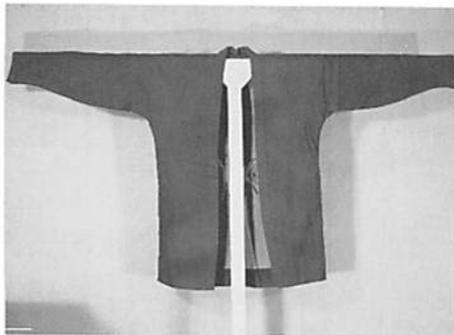
●民具類 25件一括寄贈

- | | | | |
|----------------|-------|--------|-----------------|
| 1. 火事装束 | 3点 | 江戸末～明治 | 14. 財布 |
| 2. 警防団制服 | 上衣・下衣 | 昭和17年頃 | 15. 財布 |
| 3. 笹野彫おたかぼっぼ | | 大正 | 16. 財布 |
| 4. 笹野彫おたかぼっぼ | | 大正 | 17. 女持ち煙草入・きせる入 |
| 5. 笹野彫笠かむり農婦 | | 大正 | 18. 女持ち煙草入 |
| 6. さおばかり (二百匁) | 2点 | | 19. 身だしなみ道具 7点 |
| 7. さおばかり (八十匁) | | | 20. 手提げかばん |
| 8. 定錘 (二百匁) | | | 21. 小物入 |
| 9. 定錘 (八十匁) | | | 22. 小物入 |
| 10. 腰差煙草入 | | | 23. 小物入 |
| 11. くまで | | | 24. 小物入 |
| 12. きせるすげ替え道具 | 15点 | | 25. オーバー |
| 13. 絞機 | | | |

1. 火事装束



衿60.5cm 身丈88.0cm



衿71.8cm 身丈71.5cm

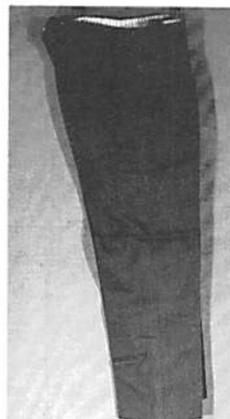


最大長36.0cm 幅40.0cm

2. 警防団制服

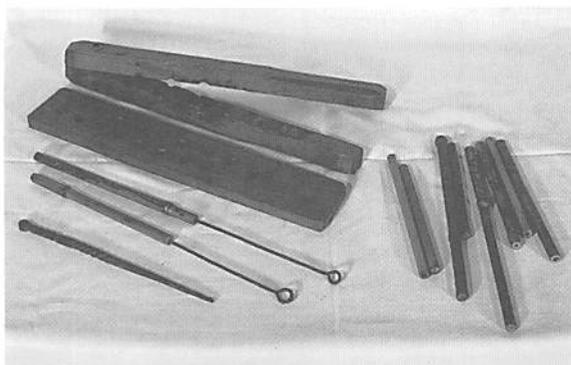


上衣
衿75.5cm
丈67.0cm



下衣
丈104.0cm

12. きせるすげ替え道具



分解道具

30.0cm×2.5cm×3.7cm

らう殺し

30.0cm×5.5cm×1.0cm

らうのそうじ道具

長さ25.2cm

雁首のそうじ道具

長さ18.3cm

細竹

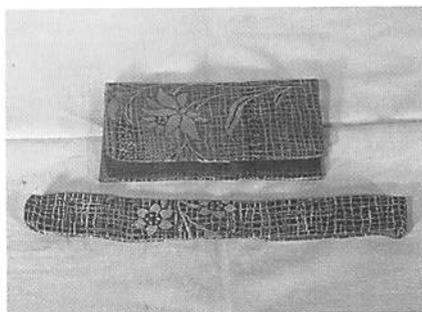
長さ11.7cmから21.0cmまで10本

16. 財布



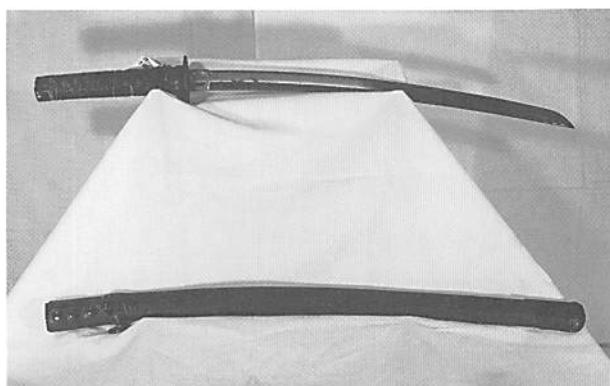
印伝(鹿皮) 10.3cm×16.8cm

17. 女持ち煙草入・きせる入



煙草入6.9cm×12.1cm きせる入20.0cm×2.7cm

●脇差 銘景則



附拵 一腰 寄贈 南北朝期 長さ50.6cm 反り1.4cm

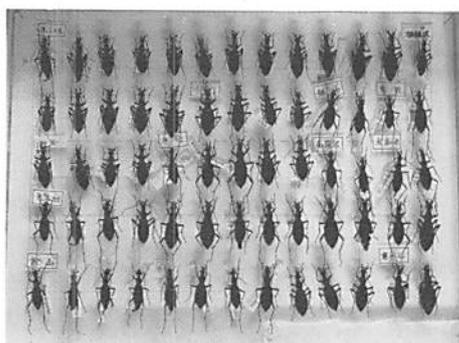
●金属製大型精密モデル「戦艦大和」



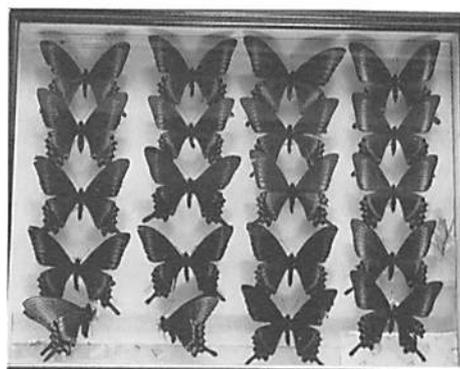
1/550 模型 寄贈
全長47.8cm 最大幅7.0cm

●昆虫標本 山谷コレクション

730箱 寄贈 ※現在整理中である。

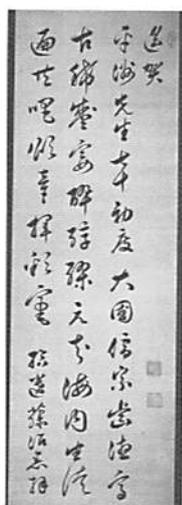


山谷コレクションの核をなすオサムシ標本
(山形県産マイマイカブリ)



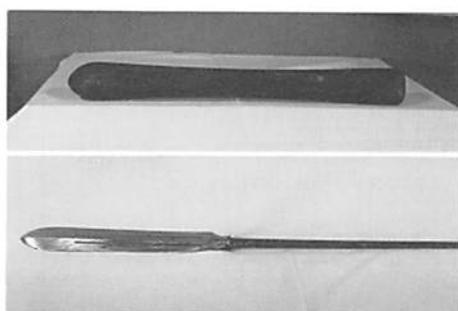
日本産蝶類の一例
(ミヤマカラスアゲハ)

●七言絶句「遥賀平洲先生七十初度」



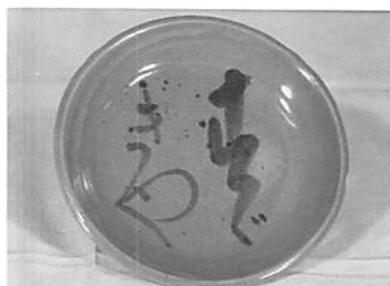
一幅 寄贈 上杉治憲筆
寛政9年
113.0cm×36.5cm

●槍 銘米沢臣源正利 於三春作
文化六年八月



附拵 一筋 寄贈 長さ24.0cm

●福田焼 そば皿



二枚 寄贈
径14.9cm×高さ3.2cm 径14.9cm×高さ4.0cm

(二枚のうち一枚)

●脇指 銘波平安元



附黒蠟色塗鞘打刀拵 一腰 寄贈 江戸中期
長さ44.6cm 反り1.5cm

●民具類・武具類・美術工芸品 17件一括購入

- 1. 享保雛 内裏雛(男雛・女雛) 二体一組
- 2. 雛屏風 六曲一双
- 3. 雛人形 五人雛 五体一組
(笛・太鼓・楽器なし・琴・笙)
- 4. 雛人形 隨身 二体一組
- 5. 雛道具 雪洞 二点
- 6. 雛道具 桃・橘 二点一組
- 7. 雛道具 楽太鼓
- 8. 雛道具 三宝
- 9. 雛道具 膳 二揃

- 10. 武者幟 (神功皇后・武内宿禰) 二旒
- 11. 幡幟 二旒
- 12. 短刀 銘平定盛 室町後期
- 13. 重藤弓
- 14. 空穂
- 15. 栈巧人形
- 16. 漆器 耳盥
- 17. 朱塗漆器 (飯櫃・湯桶・銚子・酒次) 四点

1. 享保雛 内裏雛



女雛
高さ37.0cm 最大張42.5cm
奥行25.5cm



男雛
高さ41.0cm 最大張39.5cm
奥行17.0cm

10. 武者幟

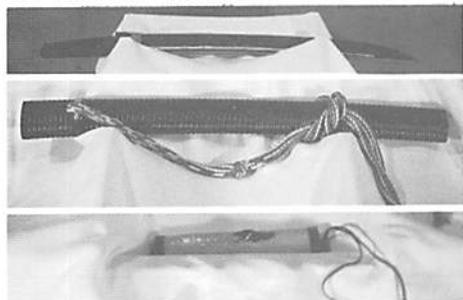


神功皇后(部分)
長さ724.0cm 幅90.5cm



武内宿禰(部分)
長さ725.0cm 幅90.3cm

12. 短刀 銘平定盛



附出鮫柄黒石目地塗千段刻精小さ刀拵 一腰 室町後期
長さ30.7cm 反り0.3cm

16. 漆器 耳盥



高さ19.2cm 最大幅35.8cm

収蔵資料件数

現在本館では収蔵資料の点検・確認を行っており、近年中に収蔵資料目録を刊行する予定であるが、ここでは1990年3月31日までに確認した収蔵資料件数を記載する。

大 分 類	中 分 類	件	数
書 跡			136
絵 画			270
美術工芸品	陶 磁 器	45	142
	土 人 形	66	
	彫 刻	12	
	そ の 他	19	
武 具 類			56
民 具 類	衣 装	62	137
	看板・棟札類	21	
	貨 幣	13	
	そ の 他	41	
文 献	個別文書	49	1,471
	鳴津文書	6	
	宇津江文書	15	
	杉原家文書	1,201	
	上杉孝久氏寄贈文書	200	
写 真			8
歴代市長・議長肖像			32
自然 科学	動 物	93	94
	そ の 他	1	
		計	2,346

調査報告

成島八幡神社「棟札」等について

角屋 由美子

今泉 ゆり子

平成二年三月二十八日、宗教法人成島八幡神社所有の『成島八幡神社「棟札」等』は、同者所有の『舞楽面』とともに市指定文化財に指定された。成島八幡神社の縁起は、その由緒について奈良時代後期蝦夷平定に難渋した朝廷軍が宇佐八幡宮から勧請し、平定を願ったことを伝えている。以来成島八幡神社は武門の神として置賜地方を支配した長井(大江)、伊達、上杉と歴代の領主の崇敬を受けた。殊に天正十九年岩出山に移された伊達政宗は、成島八幡神社の分霊を奉じてこの地を去り、現在仙台市の大崎八幡神社(国宝)となっている。

棟札は建物の火除を祈念して、多くは上棟式(棟上げ)の時、建築の由緒、年月、建築者および工匠の名を記して棟木に打ち付ける札である。成島八幡神社が有する棟札で最も古いのは、正安二年(一三〇〇)の二枚の棟札で貞和四年(一三四八)のものとともに、長井氏時代の貴重な遺産である。札の両面に記載されている場合もあるが、伊達時代のものと十一面が中世の棟札である。

棟札は、本殿・拝殿に限らず神社内の建物について存し、また寄進札等もあるが、それらは成島八幡神社及び別当寺であった龍玉寺を中心に往時を知る歴史資料となっている。

この調査は、市指定とするにあたり米沢市教育委員会が行ったものである。

(一) 棟札調査

〈調査期日〉 平成元年十月十八、十九日

〈調査者〉 米沢市文化財保護委員会

井形朝良委員

遠藤綺一郎委員

鈴木 仁委員

学芸員

角屋 由美子

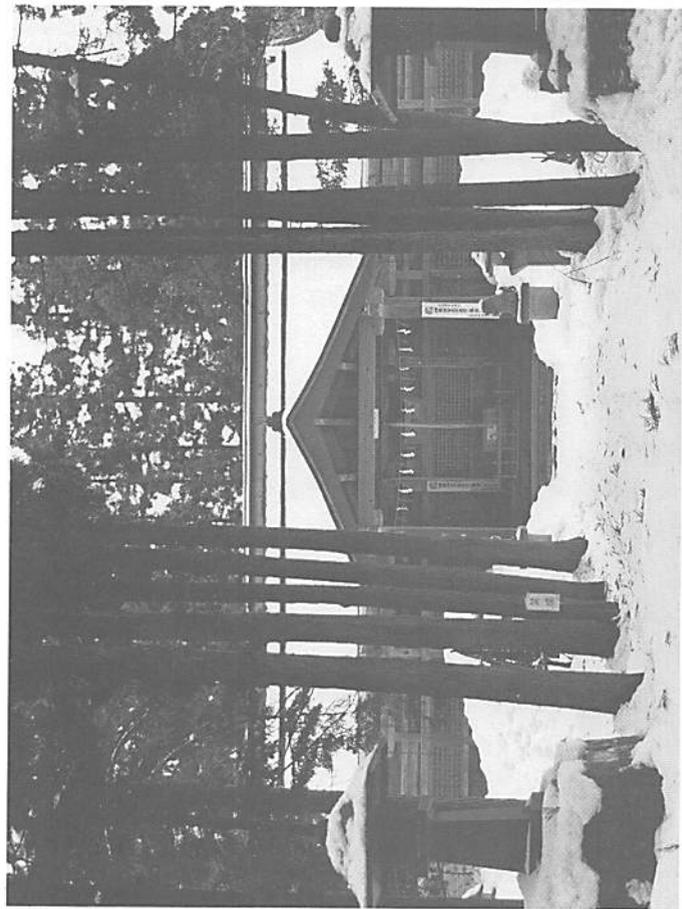
今泉 ゆり子

平成元年十一月二十二日、多賀城市の東北歴史資料館において赤外線カメラによる調査を実施。

また、平成元年十一月二十八日、奥野中彦米沢市文化財保護委員から棟札等の記載内容についてご指導をいただいた。



棟札等



成島八幡神社拝殿

(2) 「棟札」等一覧表

四十四枚の「棟札」等が確認されたが、一枚の表裏に別件の内容が記されているものもあった。今回の調査では、記載内容一件につき一つの番号をつけ、47まで番号をうった。

本殿・拝殿……●
その他……○



No.	年・月・日	西暦	造立・修理・寄附	額	主	別当	神官	法量(㎝)	材質	備考
1	正安二年六月六日	一三〇〇	修理大社御宝殿	●	彈正小弼 朝臣廉	(阿闍梨金剛仏子玄範)		短長六八最大長七〇 上幅五五下幅六三厚さ・七	栗	2の棟札の写しではないと考えられる。
2	正安二年六月十七日	一三〇〇	修理八幡宮御宝殿並長居	●	(当地頭長井掃部守大江朝臣) 江朝臣宗秀		大綱宜源吉光 (戸内同景光)	二四・二二〇 二四・五二七・四〇 六八・七六四	松	長居とは長床のことか。
3	貞和四年八月七日	一三四八	修理八幡宮御宝殿一宇	●	(当庄地頭大江朝臣治部少輔時春)	阿闍梨頼尊		六八・六四 三〇・三〇・二三	松	
4	永徳三年六月一日	一三八三	造立成鳴庄八幡宮拜殿	●	彈正少弼藤原朝臣宗遠	阿闍梨金剛		六九・六四 三〇・三二・二三	杉	裏は明徳二年棟札
5	明徳元年十月八日	一三九〇	造立成鳴庄八幡宮門神御殿	○	大膳大夫藤原政宗	律師金剛佛子玄範 (若宮別当円善)		六三・六〇・一九 六三・四六・六	松	裏は文明十年棟札
6	文明十年十月二十七日	一四七八	造立門神御社壇一宇	○	伊達兵部少輔藤原朝臣成宗	(社務竜宝寺法印範濟) 別当代権少僧都澄喜 (竜宝寺法印筑前兼僧)		六九・六四 二二・二二・二三	松	裏は明徳三年棟札御遷宮の札か。
7	明徳二年八月十五日	一四九三	成鳴八幡宮	○	伊達次郎尚宗	(社務竜宝寺実海)		二二・二二・二三 二二・二二・二三	杉	裏は明徳三年棟札
8	天文二十二年五月二十四日	一五五三	上葺成鳴庄八幡宮御宝殿	●	伊達次郎晴宗	(社務竜宝寺実海)		二二・二二・二三 二二・二二・二三	柱	
9	元亀四年八月十二日	一五七三	上葺成鳴庄八幡宮御宝殿	●	伊達次郎輝宗	阿闍梨有遍 (社務竜宝寺法印実有)		二四・二二〇 二四・五二七・四〇	松	裏は正安二年棟札
10	天正十六年八月一日	一五八八	上葺成鳴庄八幡宮御宝殿	●	(伊達政宗)	(供奉導師竜宝寺実範)		二二・二二・二三 二二・二二・二三	栗	
11	文禄五年六月十日	一五九六	造立門神御社壇上葺	○	清野与左右衛門尉	(社僧筆者阿闍梨)	社人加賀之守	六三・五七・六 一六・二一・五二	しおし	

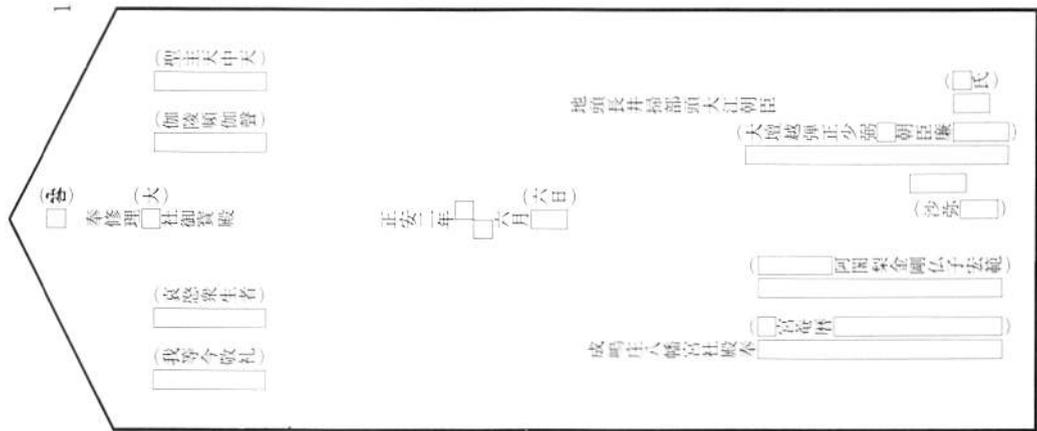
No	年・月・日	西暦	造立・修理・寄附	順	主	別	神	官	法量(冊)	材質	備考
12	元和七年八月十五日	一六二二	修造八幡宮上葺	●	(国主藤原景勝)	(竜玉寺并拾貳葉美廻上人勅之)	加賀守	加賀守	三冊五〇三八	松	
13	寛永十年九月二日	一六三四	建立門神	○	(国主藤)	(竜玉寺美俵上人勅之)	加賀守		三冊五三三五	板	後書きか。下に薄く字が見える。
14	寛永二十一年九月十八日	一六四四	造立門神御社壇上葺	○	(表国主)	(表竜玉寺美俵)	桂	桂	九冊一〇三〇		
15	寛永二十一年九月十八日	一六四四	(表新造再興河内国) 須付郡観音寺三重塔 一基 (裏若宮建立)	○	(表屏形棟) (裏竜玉寺美俵)	(表)竜玉寺美俵	桂	桂	二五冊三三四	寄進札	「河内・国須付・郡観音寺」と意をとるか。
16	承応三年九月一十五日	一六五四	造管八幡燈舎宮一宝	●	上杉播磨守藤原朝臣勝	杜務別当竜玉寺住権大僧都美俵	桂	桂	二三冊一三五		
17	寛文二年秋吉日	一六六一	再興門神社壇上葺一	○	(本願竜宝寺)		松	松	九冊一〇三三		
18	寛文九年六月十五日	一六六九	上葺成嶋庄八幡宮御宝殿	●	上杉寛平次守	杜務別当竜玉寺住法印	松	松	三〇冊三三三		
19	寛文十三年秋吉日	一六七三	再興門神社壇上葺一	○	(本願竜宝寺有意)		松	松	九冊一〇三四		
20	天和三年秋吉日	一六八三	再興門神社壇上葺一	○	(本願竜宝寺法印有意)		松	松	九冊一〇三六		
21	元禄五年七月十三日	一六九二	修理八幡宮本地阿弥院堂上葺一	●		竜玉寺法印能昌	松	松	九冊一〇三七		礎二つに割れている
22	元禄八年八月七日	一六九五	修復門神宮上葺一	○		権大僧都法印能昌	松	松	九冊一〇三〇		
23	元禄九年七月七日	一六九六	修復若宮八幡燈舎宮上葺一	○	上杉弾正太翁藤原朝臣綱憲	竜玉寺法印能昌	松	松	九冊一〇三五		左上部欠損有り。
24	元禄十二年五月吉祥日	一六九九	上葺八幡宮御宝殿一	●		杜務別当竜玉寺住法印	松	松	三三冊一三五		
25	元禄十二年五月吉日	一六九九	葺替出羽国置賜郡八幡宮物門一	○	米沢城主藤原氏綱憲公日栄		桐	桐	九冊一〇三六		
26	宝永四年六月朔日	一七〇七	修理八幡宮諸社	○		杜務執行別当竜玉寺法印慶賢	松	松	二九冊一〇三五		
27	享保六年五月吉祥日	一七二二	寄進石燈籠一基	○		杜務別当竜玉寺住法印範隆	桐	桐	三三冊一〇三六		寄進札

No.	年・月・日	西曆	建造・修理・寄附	願主	別当	神官	法量(cm)	材質	備考
28	享保七年三月初四日	一七二二	八幡宮御宝殿奉寄附 御籤三間		社務別当竜宝寺現住法 印範降		六六〇・六六〇 一〇〇・九六〇・五	松	寄進札
29	享保十二年八月初五日	一七二七	再建立神輿御堂一字		(供養導師竜宝寺法印 智融)		三六七・元二 九〇・九〇〇・六	松	
30	享保十二年八月吉祥日	一七二七	再建立神輿御堂一字		社務別当竜宝寺		三六七・元二 九〇・九〇〇・五	松	
31	宝曆十三年八月十九日	一七六三	修復上葺門神宮宝殿 一字	上杉大炊頭重定公			三五六〇・三六〇 一四〇七・一四〇七	松	
32	安永五年十月朔日	一七七六	再建八幡宮本地阿弥 陀堂一字	(上杉弾正大弼治憲公)	入仕供養導師別当竜宝 密寺法印隆慶		一六〇〇・一六〇〇 三六〇・三六〇・一三	杉	御手伝施主 本間權太 郎□采 本川兵馬春方 針生方右衛門命英 小 林久右衛門隆備 吉川 武左衛門茂孫 山口長 五郎林長 江華善助至 昌 松山与三郎政高 安部玄瑞当香
33	天明元年八月吉日	一七八一	再鑄洪鐘	塩田善藏 田中勘右衛 門 竹内勘左衛門 佐藤 弥五助 同利右衛門 勝 見伝十郎	(供養導師現住有昌)	(戸内能登守)	一九七〇・一九五九 三三・八三三・八〇七	松	鐘札
34	天明七年二月吉日	一七八七	再興八幡宮華表	勝見伝十郎	竜宝寺現住法印有昌		八八〇・九三〇 三三〇・一六〇・三〇	松	寄進札
35	文政十一年八月十五日	一八二八	葺替八幡宮		宝珠山降恭		六六三・六六八 一九六・一七二・二九	松	九十六貫七百六十文十 方施主 残而百七貫八 百二拾六文別当竜宝寺 現住降恭寄附
36	天保六年三月十八日	一八三五	再興天見屋根命			戸内能登正藤原武盛	八九〇・九二〇 一八〇・一八〇〇・五	杉	
37	天保六年八月八日	一八三五	修理八幡宮御宝殿一 字	惣村中寄附	宝珠山住降恭	能登守	一三五五・一六〇 三三六・三三六・三〇	松	
38	天保十一年八月二十日	一八四〇	葺替供養八幡宮長殿	施主村中	(導師宝珠山降恭)		一七〇〇・一三三〇 三三六・四六六・一九	松	

No	年・月・日	西暦	造立・修理・寄附	願主	別当	神官	法量(cm)	材質	備考
39	天保十五年八月吉祥日	一八四四	再興高良宮一宇	戸内能登正藤原武盛	竜宝寺 (供養導師宝珠山主法 印降恭)	戸内能登正藤原武盛	六〇・七〇 一六・三(四六一)	松	
40	嘉永四年九月初九日	一八五一	葺替供養八幡宮本社 廊下并大破損	施主村中	社務別当竜宝寺住隆貞		六〇・七三 三三・五三(一七)	松	
41	嘉永五年四月十五日	一八五二	八幡宮御宝殿奉寄附 御簾三間		社務別当竜宝寺住法印 隆貞		五九・六五 二・三九・八(二七)	松	寄進札
42	万延元年八月十五日	一八六〇	上葺門神一宇	村中	(供養導師竜宝寺現住 隆貞)		七四・九〇 三三・七三(四一九)	杉	
43	明治六年十月八日	一八七三	遷座八幡宮本社廊下 葺替大破損	施主村中 区内中		戸内武雄	二四・七(七七三) 六・三(三二四)	杉	
44	明治二十二年五月十六日	一八八九	修理若宮八幡神社屋 根葺替			戸内武雄	五〇・五五 二四・一九三(一三)	松	
45	明治二十二年五月十六日	一八八九	修理八幡神社本殿玄関 廊下高良神社屋根葺替 拝殿随神門外門屋根葺 替			戸内武雄	六八・二(二〇一) 三三・七三(七三)	松	
46	明治三十一年四月	一八九九	葺替八幡神社拝殿			戸内志慶美	七・五(六〇) 二〇・四(六五一)	松	
47	昭和四年三月・七年三月	一九二九 一九三二	成島八幡神社大修繕 工事々業				二七・〇(三三・五) 三三・〇(元三二・五)	松	もとの字を消してなぞり書きした形跡や、かんなで削って書き改めた形跡がある。

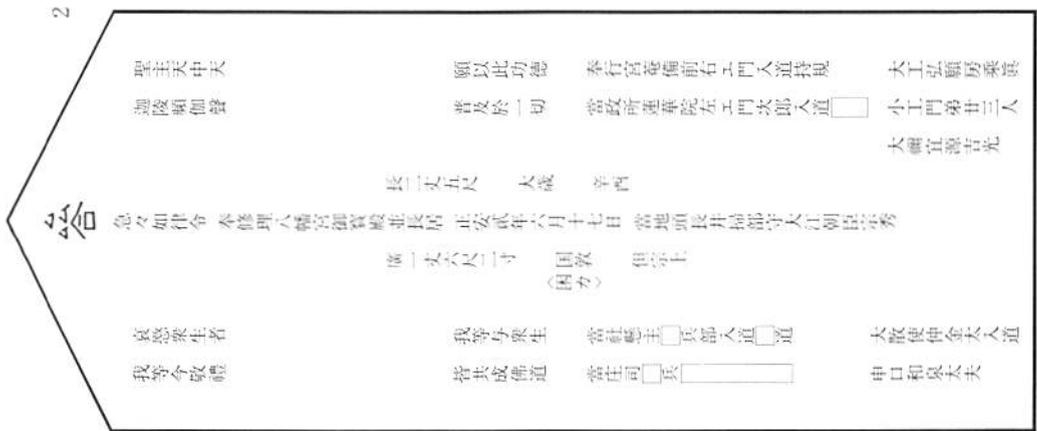
(3) 「棟札」等々について

肉眼で判読不可能であった箇所は□で表したが、「山形県史古代中世資料2」で解説されている内容や、十一月二十二日東北歴史資料館での赤外線カメラによる調査により解説された内容は()内に表記した。また読みが難解である、注意を要する等必要な箇所には〈 〉で補足した。



この棟札はもはや肉眼では文字の判読が難しい状態にある。これまでの資料・研究書では1と2の棟札が混同して考えられたり、1の内容が省かれた記載となっていた。しかし今回の調査により右の様に判読され1と2は別個に扱われるべきものであると考えられる。

「正安二年」の下は、赤外線カメラでは「美冠」と読み取れるようであった。「癸卯」のことであろうか。しかし正安二年の干支は庚子であり疑問が残る。



裏は9元亀四年棟札。「聖主天中天 迦陵頻伽聲 哀憐衆生者 我等今敬禮」「願以此功德 普及於一切 我等与衆生 普共成佛道」は、法華経化城喻品第七の偈である。正安二年六月十七日の干支「辛酉」が記されている。

「長居」とは長床のことであろうか。「国敦 但宗上」とは、国敦と但宗の2名が棟札を上げたと解するか、または「国敦」ではなく「困敦」（正安二年の十二支、子の異名）であるのか。

3

聖主天中天
 梵天封
 迦陵頻伽聲
 碑文
 奉修理八幡宮御寶殿宇字
 哀戀衆生者
 帝天封
 我等今敬札

(庄) 當 也頭大江朝臣治部 輔
 (少) (時春) 丹治家佐
 當社別當 阿闍梨賴尊 結緣衆
 貞和二年太歲 戊子八月七日 大工右衛門尉畢家守 小土三人
 當村政所兼朝臣助取彦七義綱 僧草賢
 (料給主) 當 奉行丹治朝臣左兵衛尉高綱 (回) 戸内 景光

4

聖主天中天
 迦陵頻伽聲
 碑文殊利菩薩
 物成師釋迦牟尼如來
 證識大梵天王
 哀戀衆生者
 我等今敬札

(事) 大行^レ支^レ當^レ譯^レ天
 (善護) 今日戒師^レ勸^レ并
 戒行^レ支^レ善^レ賢^レ并
 戒行^レ支^レ觀^レ世^レ音^レ并

奉造立 大僧越輝正少輔藤原朝臣宗遠
 永徳二年六月一日
 成鳴庄八幡宮拜殿 別當阿闍梨金剛者

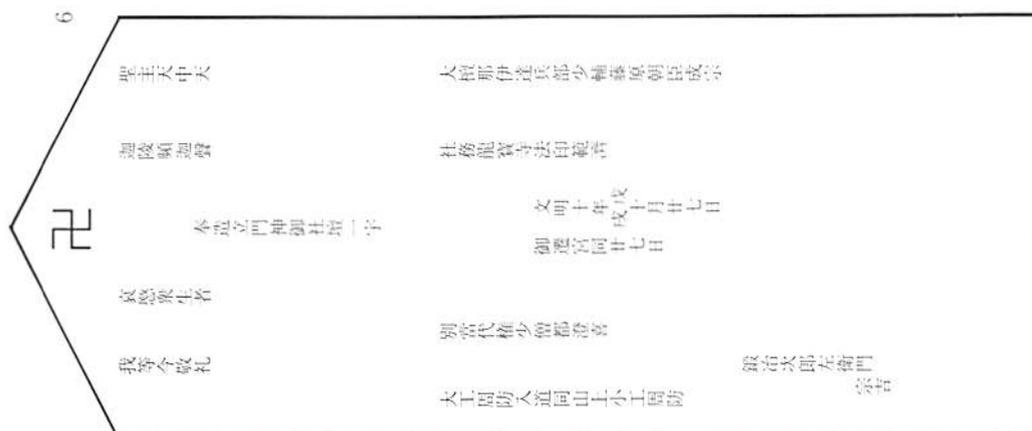
4の裏は7明応二年の札である。

5

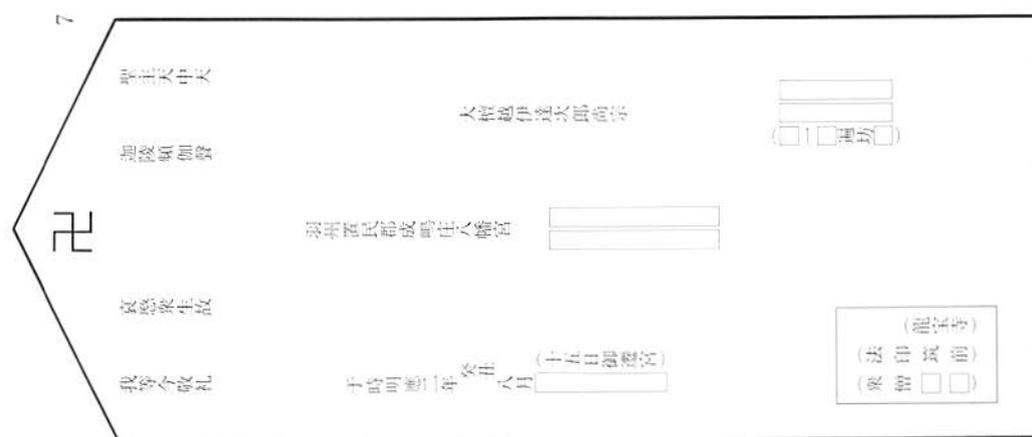
聖主天中天
 伽陵頻伽聲
 碑文師文殊
 授戒師釋迦牟尼如來
 (證識大梵天王) 天王
 (事善賢菩薩) 諸^レ行^レ支^レ善^レ賢^レ并
 (戒行支觀世音菩薩) 音菩薩

(事) 大行^レ支^レ當^レ譯^レ天
 (今) 日戒師
 (師善護) 碑文師文殊
 大僧越^レ大^レ願^レ大^レ藤^レ原^レ政^レ宗
 奉造立
 別當律師金剛佛子 (奉範)
 明徳元年庚子十月八日
 若喜別當圓善
 (成鳴) 正八幡宮門神御殿
 (奉行) 大工藤内左衛門尉

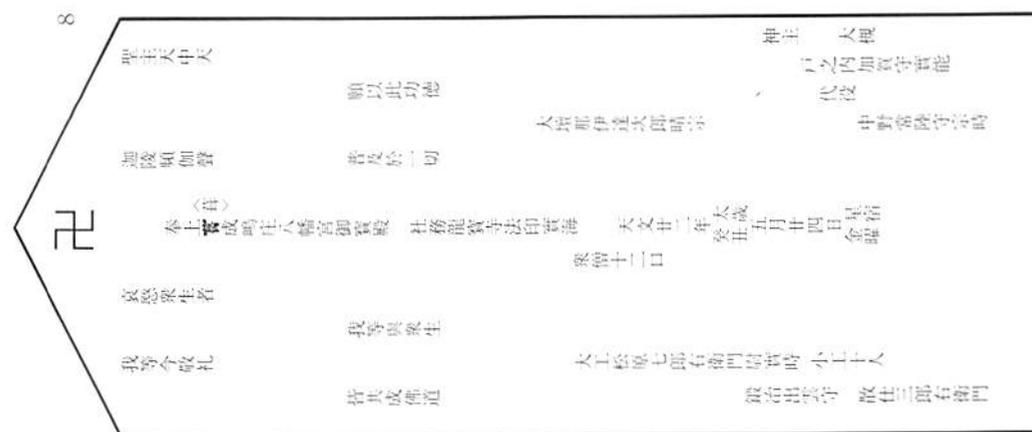
5の裏は6文明十年陳札である。



6の裏は5明德元年棟札。「龍寶寺」は成島八幡神社の別当であつた寺である。



御遷宮の札であらうか。裏は4永徳三年棟札である。



9

祀

聖主天中天

願以此功德

大増那伊達次郎輝宗

別當阿闍梨有暹

迦陵頻伽聲

普及於一切

神主

戸内大槻加賀守實時

奉^(年)上^(年)實成嶋庄八幡宮御寶殿社務龍智寺法印實有元龜四年西八月十二日癸宿
金曜

哀懇衆生者

我等與衆生

伴僧十五人政所綱久

大工松原和泉守實時小工十人

我等今敬礼

皆共成佛道

皇助七郎實正鍛冶十郎衛門

9の裏は2正安三年棟札

10

祀

聖主天中天

願以此功德

□(宮)

伴僧十二口

供養導師龍智寺實範

神主

迦陵頻伽聲

普及於一切

有法用

戸内加賀守

奉^(年)上^(年)實成嶋庄八幡宮御寶殿伊達政宗武運長久哉也^(成力祈力)天正十六年戊子八月一日角宿
土曜

哀懇衆生者

我等身衆生

△(工)

大工松原和泉 同 源三郎

小公廿人

我等今敬礼

皆共成佛道

鍛冶十郎衛門

11

祀

聖主天中天

九郎衛門同鍛冶十郎衛門

迦陵頻伽聲

社僧筆者阿闍梨

奉造立門神御社壇上^(宮)本願清野方左右衛門尉

哀懇衆生者

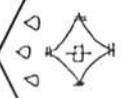
社人加賀之守大工大隈守

我等今敬礼

手時文祿五年丙申六月十日

敬白

12




聖主天中天
 大行事帝釋天王
 國主藤原京勝 諸司平林藏人助
 佛或師釋迦牟尼如來 奉修造八幡宮上尊 元和七年辛酉八月十五日 敬白
 盡誠大社天王
 諸行事普賢菩薩
 石本為御武運長久家国安穩如斯
 戒行事觀世音佛
 奉行者
 矢尾板久左衛門
 鈴木彦兵衛
 龍寶寺并拾貳眾
 實運上人勤之

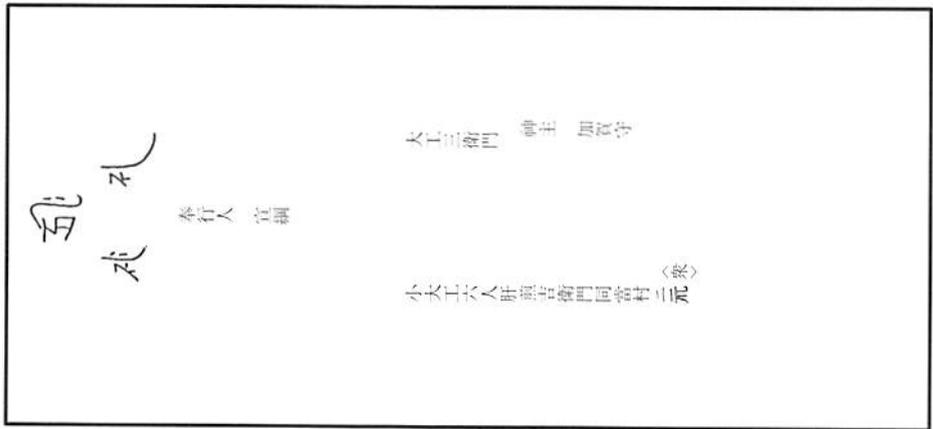
12(裏)



奉行入
 矢尾板久左衛門 鈴木彦兵衛 柳澤新衛門
 神主加賀守 肝與吉衛門
 大工 小工都九人也
 鍛冶 柳衛門
 鳴田彦兵衛

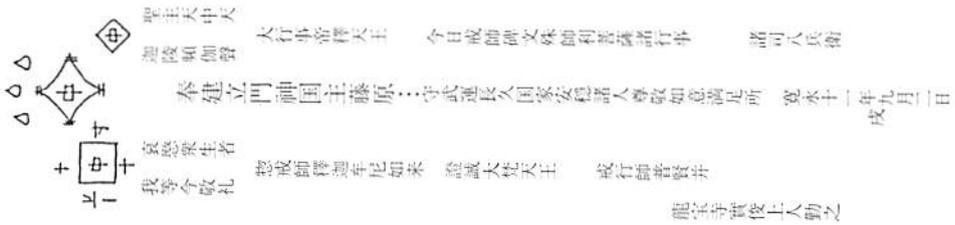
13

諸行事
 奉建立門神國主藤 守武運長久家安穩諸人尊敬如意滿足所 寛永十二年九月二日
 大覺天土威行事 普賢佛
 龍宝寺末俊上人勤之

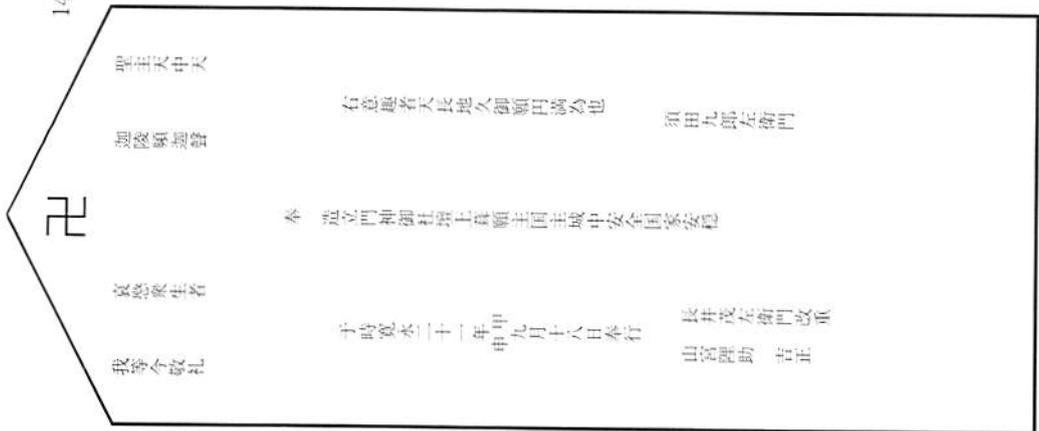


裏の種子は阿弥陀三尊を表す。
 現在はつきり判読できる文字の他に薄く文字が記されている。はつきり読み取れるのは後書きされた部分か。明治三十五年の『郷社八幡神社御由緒調査書』(社司戸内志慶美著)には次の様に載る。

(表)



(裏)



14(表)

門神

願主龍寶寺實俊

大石石山九左衛門
同小工十五人
鍛冶九右衛門尉

15

封

封

封

封

聖主天中
源殿願御覽
大目郡屋形極御武運長久世休咎則御子孫繁昌如意満足所奉行長井茂左衛門政重
須田九郎左衛門

山宮御助 吉正 鍛冶

奉新造再興河内国願付郡觀音寺三重塔婆一基乃至有縁無縁成佛道治承二年甲申九月十八日龍寶寺
別當 寛俊

喜應衆生者
我等今敬礼
有意趣者爲金輪聖皇主休安穩長地久御願円満国家安全如意自在
頭梁 重信
大石石山九左衛門
小工拾五人

15(裏)

若宮建立願主龍寶寺實俊 敬白

この棟札で不可解なのは「河内国願付郡觀音寺」の部分である。なぜ遠く河内国に「三重塔婆一基」を奉ったのか、なぜその寄進札が成島八幡神社に残るのか。また、米沢藩領三十万石のうちには伊達信夫郡があり、その中には川内(河内)の地名もみられ、觀音寺が存在することから、単純に河内国とも考えられない。そして觀音寺と成島八幡神社の関係についてはやはり不明確である。今後、調査を進めていきたい資料である。

16

祀

聖主天中天
 御陵頼遍聲
 明文師文殊師利菩薩
 總戒師南無釋迦牟尼如來 兼 佛
 哀愍衆生者
 我等今敬礼
 大行帝釋天王
 護律師四大明王尊
 承應三閻達教祥 大信心檀主 上杉播磨守藤原朝臣綱勝
 諸識事大兄梵天
 行事律普賢菩薩
 九月一十又五日 社務別當無量壽龍寶寺住 藤大曾郡 實俊欽
 諸行事觀音菩薩
 白

16(裏)

奉行六人
 須藤又左衛門尉方秀
 長谷川兵左衛門吉忠
 宮越又兵衛忠重
 平賀庄大夫長吉
 大久保宗右衛門家能
 藤生興三右衛門秀成
 櫻大工頭一人
 石山九右衛門重信

「關逢」は承應三年の十干甲の異名、「敦祥」は十二支午の異名である。

17

聖主天中天
 御陵頼遍聲
 奉再興門神社 上柱一宇 寄寛文二壬寅 天季秋吉日
 哀愍衆生
 我等今敬礼
 護持大守御願満足
 本願龍寶寺
 領国静謐万民豊樂
 代官並生久兵衛
 宮本九助
 高坂九門
 肝殿
 遠藤五郎右衛門
 大工九左衛門
 封
 封

17(表)

物奉了 壽院 元長

18

聖主天中天 願以此功德 櫻本吉右衛門吉廣

迦陵頻伽聲 普及於一切 大信心地主 上杉喜半次守 奉行 大沼助之丞吉久

祀

哀愍衆生者 我等與衆生 已

我等今敬札 皆共成佛道 社務別當無量壽龍寶寺住法印能念 白敬 大工 惣兵衛

奉土實成嶋庄八幡宮御寶殿實文九年六月十五日

19

封

聖主天中天 護持太守御願満足 本願龍寶寺 小見市兵衛 淺見忠左衛門 有意

迦陵頻伽聲

奉再興門神社覆土百一宇 嘗(時)寛文十三(癸)亥 春秋吉日

哀愍衆生者 頌國尊謚万民豐樂 代官寺嶋喜左衛門 肝殿 遠藤五郎右衛門

我等今敬札 大工 松浦久左衛門

封

20

祀

封

聖主天中天

護持太守從四位下侍從彈正大弼藤原氏綱憲

本願龍寶寺法印存意

迦陵頻伽声

奉行登坂九郎兵衛

奉 再興門神社檀上尊一宇

齊天和三癸曆 李秋吉日

大工 唐國市左衛門

哀愍衆生者

領國攝益方民豐樂御子孫繁昌所

我等今敬禮

代官角又左衛門政直

封

20表

小工

小野田喜兵衛

鈴木善之丞

佐藤忠兵衛

江口佐兵衛

肝腹

坂野又衛門

屋根貞

上原角左衛門

21

封

聖主天中天

護持太守御武運長久領國靜謐御願田滿

普請奉行子金良仁右衛門

迦陵頻伽声

奉 修理八幡宮本地阿麻呂院堂上尊一宇元禄五壬申曆七月十三日 別當龍寶寺法印能昌

哀愍衆生者

天長地久伽藍繁昌人法不違方民豐泰

大工 土屋十右衛門

我等今敬禮

封

22

三

□

聖主天中天

天長地久伽藍安全人法不退繁昌願力若斯

遷陵類伽聲

普請奉行 山田勘左衛門

奉 修復門神宮上葺一字

哀愍衆生者

大工 大竹善四郎

我等今敬札

元禄八乙亥曆八月七日 別當權大僧部法印能昌敬白

封

種子はバン（金剛界大日如来・法界虚空蔵）である。

23

聖主天中天

參大行事

(信)

文殊師利菩薩護國大王 普賢菩薩大菩薩示現神通度衆生 大觀世音正大藥師原朝臣調護 普請奉行

長東源左衛門尉政

遷陵類伽聲

財大御釋迦牟尼如来 奉修復若宮八幡堂宮上葺一字 天長地久自土豐饒天下泰平御願圓滿伽藍安穩

大工 柳沢松右衛門昌信

哀愍衆生者

(須之)

弥勒菩薩 護八大菩薩 斷除十惡為十普觀護衆生能方衆 元禄九丙子七月七日 別當龍寶寺法印能昌敬白

欠損

23(裏)

欠損

三十六人 番匠

百五十四人 屋祿森

二十人 立木

成島八幡神社の境内にある若宮八幡神社（祭神仁徳天皇）の棟札である。

「**可**」はキャ（十一面観音・馬鳴菩薩・禪賦^{ぜんび}御童子）である。「**稽首**」とは、頭を地につけて敬礼するとい
う意味である。

24

祀

聖主天中天	大行垂帝釋天	願以此功德	護持太守 藤原氏綱憲公
八	今日成師弥勒菩薩	普及於一切	領國奉行 須田右近 見分兼角藤兵衛
總護願伽藍	神文師文殊師利菩薩		春日衛門 中条兵四郎 普請奉行森九兵衛
春上拜八幡宮御寶殿一字	證誠大梵天王		元禄十二己卯 曆五月吉祥日
哀愍衆生者	諸行東普賢菩薩	我等與衆生	寺社奉行 北村庄兵衛 警道警五兵衛 郡奉行角三助
我等今敬礼	成行身觀世音菩薩	皆共成佛道	植野伊衛門
			社務別當無量壽龍寶寺住法印日榮敬白

24(裏)

瓦

春請惡魔降伏不動明王		大工 鈴木宇右衛門
春 爲當山寮昌信智威光御武運長久御子孫繁栄	(合力)	
春請伊勢太神皇宮		小工五人 小野里十衛門

25

祀

春請多門天王	春請惡魔降伏不動明王	春請持國天王	須田右近
			奉行 春日衛門
			中条兵四郎
春 寶書出羽國置賜郡八幡宮惣門一字	護持大楳那米澤城主藤原氏綱憲公		別當 日榮敬白
春請龍目天王	春請山神護法八大龍王	春請增長天王	普請 森九兵衛
			元禄十二己卯 年五月吉日

26

戒

諸（救世）佛（救世）救世者住於大神通

寶永四丁亥天

普請奉行

町倉八郎兵衛

奉修理八幡宮諸社護持大守御武運栄久所

爲悦衆生故現無量神力

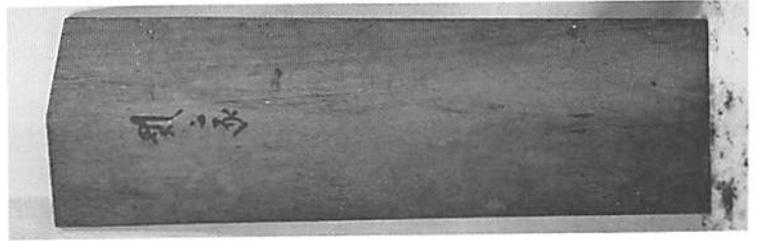
六月朔日

社務執行別當

龍窟寺法印慶宗

26(表)

野之戒



「諸仏救世者・住於大神通・爲悦衆生故・現無量神力」は法華経如来神力品第二十一の偈である。

27

祀

意趣者 護持政千代君御武運長久御息災延命

信心大願主

御守

片桐仁兵衛

護持太女

筆者

中條玄休

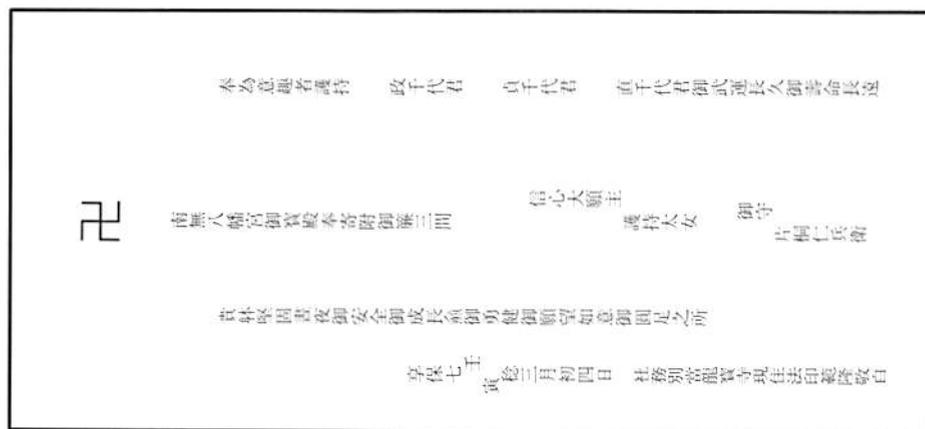
南無八幡宮奉寄進有燈（徳）二奉享保六辛丑（徳）五月吉祥日

貴林亭固御成長禰男健御願望御成就之所

社務別當龍窟寺住法印 範隆敬白

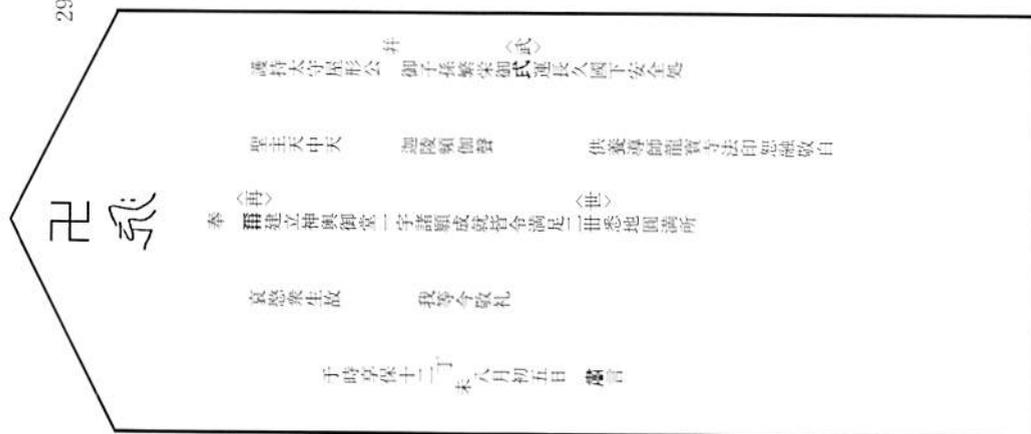
「政千代君」は第七代米沢藩主上杉宗房のことである。この時四歳であった。宗房の武運長久、息災延命、貴林堅固、成長勇健、願望成就等を願った寄進札である。

28



「政千代君」は前述の通り宗房、「貞千代君」は宗房の弟で畠山主計義躬の養子となった義紀、「直千代君」は宗房・義紀の弟で第八代米沢藩主となった上杉重定のこと。27と同じく富進札である。

29



「悉地」とは真言の秘法を修して自在神力の妙果を得ることである。

30

飛

奉

再

建立神輿御堂二字諸願成就皆令満足現當三世安樂和所

享位上二丁
未歲

八月吉日

大工 松浦藤兵衛同清九郎同長右衛門

石山源左衛門 松浦源三郎

金澤喜四郎

松村仁兵衛

敬白

「成辨」とは願いなどを認めてかなえることである。

31

立

聖主天中天

迦陵頻伽聲

奉修覆上青月門神宮宮殿壹宇

哀感衆生者

我等今敬禮

大檀主上杉大炊頭重定公

天下泰平国家安全

上和下睦武運長久

社壇繁昌盛光自在

嘉應十三癸未年八月十九日

社務別當龍澤寺

御普請奉行

安部林藏

今井吉左衛門

大工

田村十兵衛

31(裏)

建立者寛永拾一徳九月二日棟札有

(聖主天中天) 吉安永五丙申年十月朔日 入佛供養導師
 (迎陵願伽聲) 別當龍寶密寺法印隆慶
 (我) 奏再建八幡宮本地阿彌陀堂一字右爲合法久住利益人天天下奉至國土安穩也
 (哀恐衆生者) 上杉彈正太弼信憲公 奉行職 竹股美作 色部典膳 巧匠 桶塚新藏
 (我等今敬礼) 千坂教馬

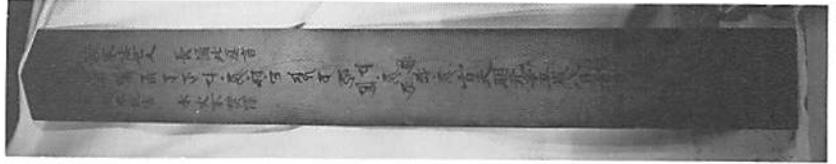
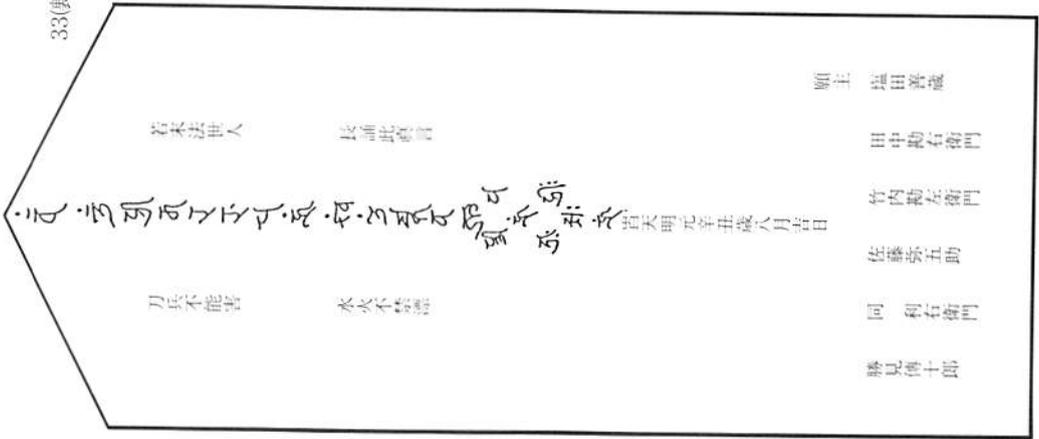
我比土安穩 本間權太良 □柴 木川兵馬 森方
 南無虚空地神 興聖寺属
 天人常充滿 針生方右衛門命英 小林久右衛門 悠編
 一過御手傳施主建立之 吉川武左衛門 茂孫 山口長五郎 林長
 園林諸堂園 江華普助 至昌 船山与三郎 政高
 南無五帝龍王 侍者眷属
 種々寶莊嚴 安部玄瑞 當者 教合九重 (藏)

「我比土安穩・天人常充滿・園林諸堂園・種々寶莊嚴」は、法華経如来寿量品第十六の偈である。

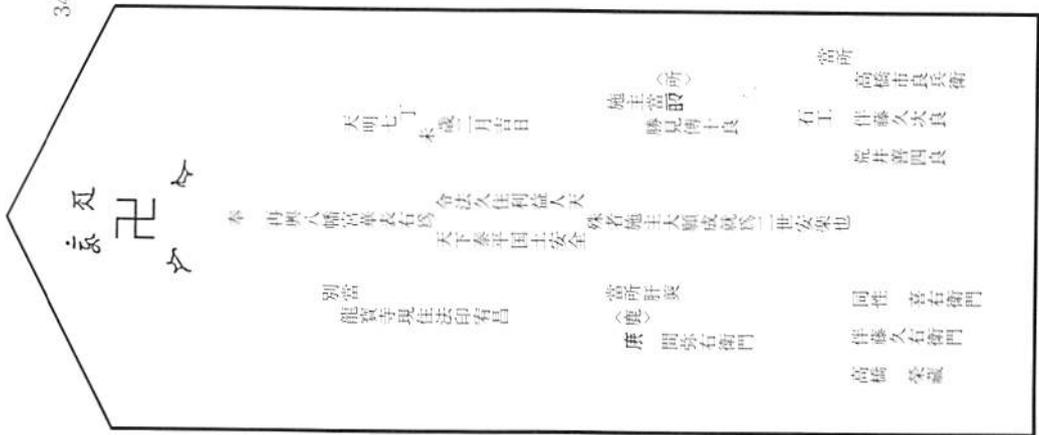
我等今日 聞佛音教 供養導師現住存昌 八輪講
 奏再建八幡宮 合法久住利益人天 殊者爲助力施主自他平等三世安樂也 惣人中
 天下奉至國土安穩 得未曾有 戸内能登守
 新喜踊躍 鑄師 鈴木善兵衛



33(表)



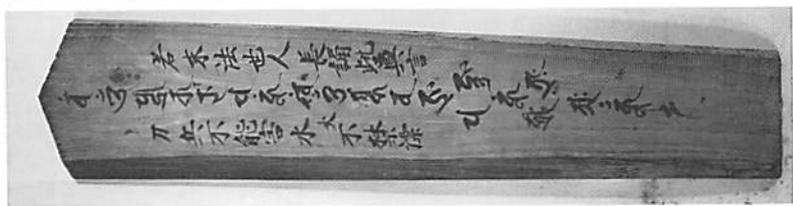
34



34(表)

若末法世人長誦此真言
 刀兵不能害水 火 不焚漂

自・空・阿・彌・陀・佛・心・願・力・不・忘
 刀 兵 不 能 害 水 火 不 焚 漂



八幡宮の「垂表」＝鳥居の寄進札である。

35

聖主天中天 御陵願伽藍 文政十二年 別當 高橋勝五良

奉 拜 替 八 幡 宮 石 燈 籠 命 法 久 住 利 益 人 天 殊 者 村 中 安 全 二 世
 天 下 泰 平 國 土 安 全 助 成 權 越 自 他 平 等 也 安 榮

哀 愍 衆 生 者 我 等 今 敬 禮 八 月 十 五 日 成 爲 界 大 工 高 橋 勝 五 良
 世 話 人 中 澤 淺 右 中 平

35(歳)

下

我此土安穩 天人堂光潤
園林諸堂閣 種々宝莊鐵

御代地諸品代請取分
一四拾六貫八十九文
大工小引小板割小板舞諸人賃目料
一五十七貫三百文
又二百四貫百八十六文
右之内九十六貫七百六十文十五方施主
差引銀面
一七貫八百一拾六文
別當龍雲寺現住
降恭書附

36

鎮

天保六乙未歲
一天泰平社頭康榮一村安全
奉再儀天見屋根命今時奉崇一靈廣大加聚海
五穀成就常磐堅磐守護幸賜
三月十八日
神主 戸内能登正藤原武盛
大工 遠藤朝喜弥邦祝

36(歳)

老上靈寶神道加持

成島八幡神社境内にある大宮神社は祭神が天見屋根命であり、その棟札であろう。

37

社

聖主天中天 迦陵頻伽聲 天保六乙未 別當 寶珠山住隆慈代

奉 修理八幡宮御寶殿一字右爲 天下泰平国土安穩 殊者 村中安在 助成 禮越 現當安樂

哀愁衆生者 我等今敬禮 八月八日 大工棟梁 遠藤利喜券邦祀

37(裏)

二

我此土安穩 天人當充滿 世話人 神主能登守

園林諸堂園 種々寶莊殿 鈴木角平 色摩秀弥

情野利左衛門 佐藤五右衛門

惣村中寄附 色摩傳右衛門 惣大

高橋市郎兵衛 卯吉

鈴木吉平 角次

佐藤茂右衛門 虎藏

鈴木新兵衛

38

社

聖主天中天 迦陵頻伽聲 天保十一子歲 導師 寶珠山住隆慈

奉 拜替供^義八幡宮長殿右爲 今法久住利益人天 殊者 村中安在 助成 禮越 二世安樂也

哀愁衆生者 我等今敬禮 八月廿日 施主村中

39

祀 巳

聖主天中天 迦陵頻伽聲
 奉 再興高良宮一字右爲 命法久住利益人天 村中安全 二世安樂
 天下泰平国土安全 殊者 護持施主
 哀感衆生者 我等今敬禮

39(庚)

天保十五年甲辰
 別當 龍寶寺
 供養導師寶珠山主法印隆基 神主大願主 戸内能安正藤原武盛
 八月五拜日 大工 佐藤八百藏藤原昌信

成島八幡神社境内にある高良神社（祭神武内宿弥）の棟札である。

40

祀 巳

聖主天中天 迦陵頻伽聲 嘉永四年辛戌 社務別當 無量力龍寶寺住持貞白致
 奉 拜替供養大幡宮御本社鹿下大破損右爲 命法久住利益人天 村中安全 二世安樂也
 天下泰平国土安穩 殊者 助成祝越
 哀感衆生者 我等今敬禮 九月初九日 大工 力弥其祝 小工 五人
 施主村中

40(張)

二
百

我	此	主	安	穩	世	話	方	肝	爽	若	者	頭
天	人	常	充	滿	欠	代	鈴	木	角	同	同	佐
園	林	諸	堂	園	長	百	佐	藤	茂	同	同	荒
種	々	寶	莊	藏	同	同	井	上	久	同	同	荒
							荒	井	仙	同	同	井
							佐	藤	五	同	同	井
							勝	見	傳	七		七

41

正
心
礼

聖主天中天
 意願者護持 町田勘之助 障守
 同姓 宮次 豐功武運長久家内安全 退散
 南無八幡宮御寄殿奉寄附御遊三間石為 金法久住利益人天 殊者信心大願主
 天下泰平国土安穩
 喜樂衆生者
 增長福聚如意滿足殊抽誠精所修如件
 我等今敬礼

41(張)

二
百
三
十
二

南無虚空地神 社務別當龍寶寺住法印
 嘉永五年壬子 四月十五日 隆貞敬白
 南無五帝屯王



合

聖主天中天
 禮儀顯伽聲
 奉 上真門神 一字石爲
 哀感樂生者
 我等今敬禮

令法久住利益天人
 天下泰平國土安穩

願主村中助成 禮越目他平等
 安樂也

萬延元 庚申年八月十五日
 供 環 導師
 龍習古現住降貞敬白

子

我此土安穩
 園林諸堂閣

人人常充滿
 種種寶莊嚴

肝 慶
 次 代
 長 百 生
 " "
 " "
 " "

鈴木角牛
 祝井仙右衛門
 井上久左衛門
 勝見傳七
 佐藤茂右衛門
 佐藤茂左衛門

矢子次代
 "長百生 禮野庄右衛門
 當村世話人 佐藤代吉
 中老役 源兵衛
 角次
 矢子 鹿五郎
 大工 藤藏
 " 金護善右衛門
 井上角衛

一天泰平常有奉替守幸布
 奉 遷 入 娘 宮 本 社 廊 下 貞 替 大 破 損

(礎)

村官戸内武備宣
 戸長 鈴木修平
 郷内安守寺給副戸長 鈴木吉彌

伍長 禮野庄右衛門
 佐藤茂左衛門
 佐藤友彌
 井上武右衛門
 勝見傳七
 遠藤安右衛門

若者頭 色摩利五郎
 遠藤源兵衛
 曳地理兵衛
 井上萬藏
 大工棟梁 井上重藏
 施主村中 副大工 七人
 同區内中

43(表)

明治六年癸酉十月八日

44

皇御孫之命之大御世乎 足長之御世止 幸給比

奉修理若宮八幡神社屋根葺替

祠官戸内武雄宣

氏子捲代

井上萬藏

荒井仙石工門

井上利輔

天之下之公民又氏子之益人等 奉 撫忠給布

若者頭

佐藤捲七

斎藤勇吉

于時明治廿二年五月十六日

大工棟梁井上角衛

鈴木紋次郎

佐藤藤次郎

45

皇御孫之命之大御世乎 足長之御世止 幸給比

奉修理八幡神社

本殿玄關廊下高良神社屋根葺替

祠官戸内武雄宣

氏子捲代

井上萬藏

荒井仙石工門

井上利輔

拜殿随神門外門屋根葺替

若者頭

佐藤捲七

斎藤勇吉

天之下之公民又氏子之益人等 奉 撫忠給布

大工棟梁井上角衛

鈴木紋次郎

佐藤藤次郎

45(美)

于時明治廿二年五月十六日

46

皇我朝廷肇始四方國乃	社司 戶内志慶美	全	氏子物代 井上弘光
奉拜替八幡神社拜殿		全	井上利輔
		全	祝井電吉
		全	明治卅二年四月
		全	若妻世高孫 佐藤清三郎
公民表乃守日乃守幸給	屋根親方 田中留五郎	全	小池未吉
	全副親方 神尾盛次	全	井上龍藏
		全	高橋常次

47

鎮

手置帆負命

屋船久々能知命

八意思兼命 成島八幡神社大修繕工事々業

屋船受其賣命

彦狹知命

			昭和七年三月			
	広幡村長	鈴木寛太郎	広幡村長	佐藤邦藏	手時	米価壹石
	氏子總代	情野利吉	氏子總代	鈴木吉郎	二九円〇七錢	昭和四年
			同	尾家久太郎	二二円二七錢	昭和七年
昭和四年三月	齊主	社司	戸内幸平		(東京正米市場平均価格)	
	氏子總代	色摩富英	氏子總代	佐藤清三郎	米穀總額	
同	佐藤文輔		同	佐藤佐久	金壹萬六千円也	
			同	勝見長之助		

この棟札の表の面、「鎮」と神々の名の部分は、もともと書いてあった文字を消してその上をまたなぞり書きしている。裏の面は、かんで削って新しく書き改めている。この一枚は市指定にならなかった。

組織・名簿

市立上杉博物館協議会委員（任期S63.7.1～H2.6.30）

小出 貞一	米沢市小学校校長会々長	大 峽 孟	委員長	学識経験者
中村 忠	米沢市中学校校長会々長	菊池 伸之	学 識	経 験 者
星 篤志	米沢市高等学校校長会々長	鈴木 仁		〃
平 亨	米沢市社会教育委員	山中 三平		〃
栗林 一雪	(財)上杉博物館協会理事長	太田 清柳		〃
石栗 正人	米沢生物愛好会々長	山村 精		〃
鈴木 金造	(市議会)文教厚生常任委員会委員長	鳥海 隼夫		〃
山田 武雄	学 識 経 験 者			

（根拠法令等）

1. 博物館法第21条（博物館協議会）
2. 教育委員会が任命
3. 米沢市博物館の設置及び管理に関する条例第16条により定数15名、任期は2年
（参考）委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者。

（職務）——博物館法第20条第2項——

博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる。

平成元年度協議会

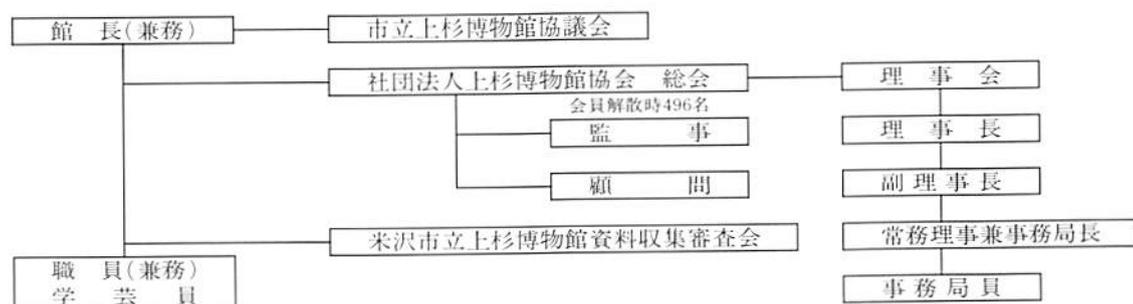
開催日 3月22日

場 所 置賜総合文化センター第2研究室

内 容 報告 (1)平成元年度博物館事業について
(2)平成元年度の寄贈物件について
(3)博物館管理委託団体の変更について
協議 (1)平成2年度博物館事業計画について
(2)その他

社団法人上杉博物館協会

本館では、社団法人上杉博物館協会に管理を委託していたが、平成2年3月22日当協会は解散し、かわって財団法人米沢上杉文化振興財団に委託することとなった。



理事長	栗林金郎
副理事長	長岡正
同	北目二郎
常務理事	長尾和彦
理事	山田武雄
同	岡 鎮雄
同	小泉 溥瑛
同	中村 鉄藏
同	新田 秀次
同	赤木 伊勢吉
同	新屋 勇雄
同	須貝 力
監事	後藤 宮雄
同	手塚 春夫
同	塩川 勝彦
事務局長	長尾和彦
事務局員	菊地米子
"	村田元生

理事	山岸才一
同	水無瀬正一
同	清水澄人
同	石栗正勇
同	小荒井信雄
同	井形朝良
同	小野 栄治
同	上泉 治助
同	勝見 吾伸
同	菊池 之
顧問	種村一郎
同	大島一太郎
同	今泉 亨吉
同	高森 務

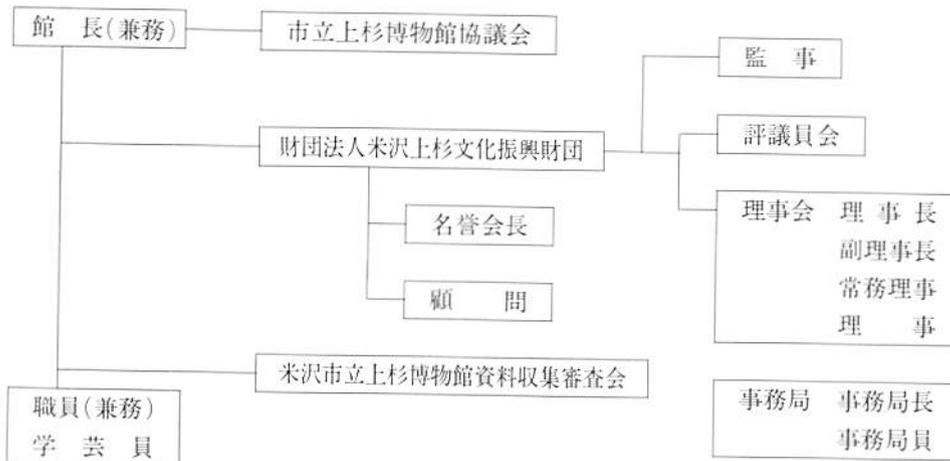
財団法人米沢上杉文化振興財団

本館の管理を委託していた(株)上杉博物館協会が解散し、かわって財団法人米沢上杉文化振興財団が平成2年3月22日設立され、館の管理を財団に委託することとなった。

平成元年、上杉家16代当主隆憲氏より、国指定重要文化財「上杉家文書」・同じく「紙本金地著色洛中洛外図」・県指定文化財「紙本著色

瓶図」・重要美術品「太刀銘長船長光附打刀拵」の4件が米沢市に寄贈された。当財団はこれを機として設立されたものである。

地域文化の振興を図るため、歴史・文化に関する調査研究及び美術品の公開展示等の事業を実施し、地域社会のより豊かな文化生活に寄与することを目的としている。



平成元年度

米沢市立上杉博物館年報Vol.2

編 集 米 沢 市 立 上 杉 博 物 館
〒992 山形県米沢市丸の内一丁目4-13
☎ (0238) 23-7302

発 行 米 沢 市 教 育 委 員 会
〒992 山形県米沢市金池五丁目2-25
☎ (0238) 22-5111

平成3年3月30日発行

印 刷 株 式 会 社 川 島 印 刷
